

<h1>1973</h1>	 <h2>スカウト 浜松</h2>	<p>スカウト浜松</p> <h1>第50号</h1>
---------------	---	-----------------------------



「スカウト浜松」第50号によせて



浜松地区委員長
内田時世

明けましておめでとうございます。昭和37年7月20日「スカウト浜松」創刊号が発行されて10年5ヶ月を経た今日、浜松地区のスカウト運動は幾多の苦難の道乗り越えて、多数の人々の善意にささえられて今日に至ったことは誠に同慶に耐えられません。あたかもこの創刊号の年アジャジャンボリーが御殿場に於て挙行された事を一昨年の世界ジャンボリーを想起して唯感無量のおもいです。当時の記録を見ますと地区登録505名とあります。現況の2100余名の登録を思えば

更に皆々方の奉仕のお陰であると自らの微力を今更のように思い唯関係各位に尊敬と敬意の念を新にしている次第でございます。然し45万都市大浜松市を中心とする地区としては決して誇るべき現状ではございません。スカウトも量より質と言われていますが、我らBSの父ベーデン・パウエルが何んの目的で此の運動を始めたか、彼B・Pが当時の退廃した祖国英国の子供達を守り、更に子供達を心身共に健全なる愛国的市民へと鍛えあげるために、此の運動に着手したことを思えば、我が日本の次代の青少年のため、我々は更に此のBS運動に誇りと自信を持って、奉仕しなければという使命感をいだいてもよいではないかと思えます。

本年は日本連盟創立51年、静岡県連盟

創立52年と、きざまれたる年輪は半世紀をすぎたという才月を経て今日に及んでいます。此のBS活動に一名でも多くの青少年が参加して、次代えたくましく「いやさか」を伝えて行くことこそ望ましいことと思えます。唯、私共が此のすばらしい運動に自画自賛すぎているきらいはないであろうか。誰しも協力のスタイルこそちがっても此の運動に協力と援助を惜まない善意の人が大勢いるはずであります、その人達にもっと私共はアプローチして一人でも多くのスカウトを教育し、仲間をふやして、年輪無限にしたいものであります。一言終りに望んで「スカウト浜松」の弥栄を祈り、地区組織拡張委員長杉山友男殿外委員の方に感謝をささげます。



県コミッショナー

内田 嘉一

スカウト浜松、50号に寄せて

○今から10年前の昭和37年、第3回日本ジャンボリー、第1回アジアジャンボリー参加を前にして士気昂揚と緊密な連絡とを願って創刊したスカウト浜松、が50号迄継続されて、今日の発展の姿を見る時、その間の慌しかった地区の歴史が走馬灯のように眼前をよこぎるをおぼえる。

県下の地区の中では、注目をされていたものの、未だ後進地区の浜松地区であった。このスカウト浜松、に人の和と地区の発展の願いを込めて地区コミと事務長を中心にして画策されたのである。

○第2号に当時の内田六郎地区委員長に題字を揮毫して頂いた。

昭和40年春、浜松地区より浜名地区が

独立して行った。

従来、三輪事務長が編集発行責任者であったが、昭和42年1月発行のものから、組織拡張委員会に委譲され、杉山友男委員長が編集発行責任者となって弥栄組織拡張委員会の重要な仕事の一つとして今日迄継続されて来たのである。三輪、杉山の両氏の努力とその功績は誠に偉大で、感謝に堪えないものがあります。

○そして、昭和42年春、北遠地区が独立して行った。

私達の同志、仲間、兄弟が夫々独立して行った事は、一面淋しい気もするが、少年達の為には、組織の発展の為には、そして指導者の研修の為には、そうしなければならぬお互の発展への大切

な事である。

○多くの喜びや悲しみを秘めての10星霜、そして50号という金字塔は県下各地区を通じて最高のものであって、まさにスカウト浜松、の大きな誇りである。その間、2回の日本ジャンボリー参加世界ジャンボリー参加、海外派遣、多くの行事、作文、感想、教訓を広範に伝えて、その功は地区の発展と共に偉大なものがある。

このスカウト浜松、を地区の皆の心のよりどころとして、皆のものとして、又、皆で協力して育てて更に一大飛躍して行きたいものです。

50号おめでとうございます。長い間のご協力御苦労様でした。

今後どうぞよろしくお願い致します。



浜松地区コミッショナー

三輪 悦爾

新年あけまして おめでとうございます

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年の丁度今日、中田島砂丘において、新しい気持ちで、今年こそは充実した年であるよう、力強く歩み始めてから一年、何が充実した年であったであろうかと反省をさせられる。又昨年夏は、県連50周年記念事業の一つとして、米國派遣に選ばれアメリカ西海岸を旅して、何を果たしたであろうか？

膨大なアメリカ、富と力と技術を尽した、デズニーランド等の施設、スプリングクラールによる自然保護、キャンピングカーによる休暇村、道路網の確立、交通道徳のマナの良さ、ヒルモント・スカウトランチにおける、自然林でのトレーニング・キャンプ、教え挙げれば限がない。

そして、アメリカの歴史を考えると、必ずと云って良い程、開拓の歴史が、うかんてくる。それは一口に云って、過酷な自然と斗い猛猛なインディアンと斗い年

ら、独立していったそのなかから、自然に同胞愛が生れ、愛国心が育っていったことに深く頭を下げると共に、我々は、もっと同胞意識、日本民族意を誇ってもよいと、つくづく感ぜさせられる。今年こそは、日本人として民族意識を誇る事に努めようと心に深く刻んだ次第である。

其の2

足もとを見直そう

とかく、原則的なことをおきざりにされてないだろうか？

毎日毎日同じ事を繰り返しておると、マンネリになり易く、ささいな事がおきざりにされ、それが極めて大切な事がよくある。

本年は、先ずボーイスカウト教育における二大制度（パトロールシステム＝班制度・パッチシステム＝進歩制度）を確立してゆこうではないか。

班長を中心として班活動が進められておるか？班長教育が行き届き、班長を全

面的に信頼しておるか？必修課目と選択課目のバランスは良いか？等々もう一度ふり返り反省してゆこうではないか。

この二大制度なくして、ボーイスカウト教育はなり立たないと云うことを？…そして我々の住んでいる、郷土の歴史をもっともっと知ろう。

今日あるを、先人、遺人に感謝を捧げようではないか。

其の3

カブスカウト活動にもつとつとママサンに参加して貰おうではないか

子供を生み、育てた経験のあるママサン、こんな素晴らしい教育者はない。

デンマザーとして、リーダーとして、生きたカビングの為にどンドン参加していただき男らしい男を造る為に是非お力をかしていただきたいと心に願うものである。

斯の道の為によりしくお願い申し上げます。

新春を迎えて

浜松第6団委員長
近藤勝彦

三指 謹んで新春をお慶び申し上げます。

1973年の年頭に当り私は想う、敗戦後国民の虚脱状態が十余年経過、ようやく正状化しつつある時、子供達は民主主義をはきちがえ非行少年が続出し、子弟の育成に事欠き何か良き少青年の指導機関はないものかと考えて居ました時「一

日一善」三つの誓い12のおきて、これらのスローガンにみせられて、私共は浜松6団少年隊を内田嘉一先輩の御指導に依り昭和32年10月結成しました。

1959年日本ジャンボリー饗庭野へ又、渋川へ地区の野営等々に参加して来たボーイが今では子持のパパになって居

るのを見る時、洵に感無りようです。

私より先輩が5指余りとなった今日今でも現役として引続き活躍の先輩各位の御精心に於て万腔の敬意を表するもので御座います。

年頭に当り指導者各位に

1、時間励行を御願ひしたい。 弥栄



浜松地区事務長
牧野 績

私がボーイスカウト運動に足をつくこんだのは、今から17年前の昭和30年夏であった。当時子供会にも関係していた私は少なからずその行き詰まりに、なやみとその解決策を求めていた。たまたま子供会の子供リーダーの養成を県が主催したとき、ボーイスカウトの指導者がゲームや結索、その他色々指導され、その方法に感動し、早速3泊4日の講習を受講。それ以来隊結成に日夜関係者を訪問協力を求めた。当時浜松市には3カ隊しかなく、指導をおおぐ事も少なかった。また地域の子供会役員との問題もあり、なかなか話しは進展しなかった。私はその頃三組町に居住していたので、同町の有識者、内田六郎氏（現地区協議会長）の門をたたいて相談を持ちかけたところ、内田時世氏（現地区委員長）を紹介された。時世氏は当時、青年会議所のメンバーでボーイスカウト運動には感心をもたれていたもので、私も意を強くし、

雑 感

高町の高台を中心に育成会を発足、子供達の訓練を初め、昭和31年7月7日の七夕に友隊を迎え盛大に結成式をあげた。その後各地にボーイスカウト結成の兆しが見え、冬の寒い夜などよく自転車に乗って説明会に飛び廻ったものであった。各地に隊が結成され、リーダーの数も増して来たのとお互いの研修の場を求め、毎月第3土曜日をリーダー定例会とし、その名も三土会と称し、法林寺の本堂に集まり研修を重ねたのである。これには、プログラムの交換、歌唱指導、ゲームの指導法等リーダーとしての研鑽にはげみ水準の向上につとめたものである。仕事の都合により、一時、静岡へ転住したが、初めのうちは三土会にも顔を出していたが、その後ご無沙汰がちになってしまった。今年4月浜松へ帰りましたら待ち構えていたように地区のメンバーに加えられてしまった。最初はあまりにも地区が大きく発展したので、とまどってしまい、地区役員になった事を後悔した次第である。

改革され、ブロック制を採用、それぞれ各ブロック毎に活躍しておられることは、まことに結構である。しかし、地区の定例リーダー会を開催しても出席者は少なく、いつも顔ぶれは同じ、また全然出席しない団もあることは残念でならない。地区には現在185名のリーダーが登録されている。教育面については、地区コミが色々計画をたてリーダーの指導に力を入れておられますので、これに対してもこたえる必要がある、先般、行なった浜松市内の史跡めぐりにしても、地区リーダー研修費をついやしたにもかかわらず参加者が非常に少なかった。スカウティング向上のため、今少し互いの研鑽が必要ではないか？

最近の技術革新下における社会で求める人間像としても、①強い責任感、②正確性、③厳格な規律、④協調性、⑤忍耐力、⑥積極性、⑦創造性などが要求されている。組織が拡大されると、責任感、協調性が失なわれる、お互に協力し、研究を重ね子供達に遊んでもらえるリーダーになりたいものである。

今年度から地区においてもその機構を

自己研鑽

地区事務次長 柴田 薫

成々スカウトの道、特に指導者としては「自己研鑽が必要である」と言われています。自己研鑽とは「物事の理をみき、きわめる」ことである事は知っているけれど、私達はともすると忘れて、なおざりになりがちの様な気がします。私も例外ではありません。

そこで私は自己研鑽について次の様に考へて居ます。

自己研鑽とは特別に研修を受けるばかりでなくて、「いつ」「どこで」でも受けられるのだと思います。少しでも多くの本を読む、先輩、知人、身近な人など沢山人と話をすると、此のことから始まると思います。要は研鑽をすと云う気を持つ努力が必要であろうと思います。

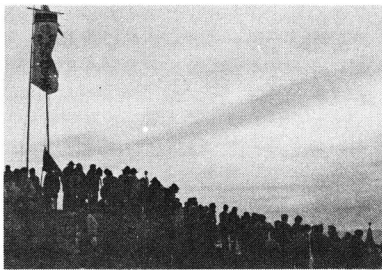
デモクラシーは責任ある意見を出し合っ、合意点を見付ける処にあると言われますが、此の気持ちで望む事は総ての事について言えるのですが、此の気風こ

そ自己研鑽の始まりと言っても間違いいではないと思います。

私達は隊を預って、毎月の「テーマ」を消化している訳ですが、その中のゲーム一つ取って見ても、属に言う「二番せんじ」か「また同じもの」である為め、子供達から「あまたか」と言われて居ないだろうか、テーマにしても昨年と同じ様な流れになってしまう、応川の研究が生まれないうで、新鮮味が全くない。そこで隊長は苦悩する、子供達は「あき」が来る、隊長はあわてて資料を探し、何とか進める事が出来たがまた壁に突き当たる、これが私達だと思います。目先のテクニクだけを追っている、此れでは「我流」ではないでしょうか。チャーヤンが言っている「私立スカウティング」ではなかろうかと思ひます。そこで「スカウティング」とは何んであるかを考え直して見て、皆と話し合い新鮮な、応用の研

究をし、良いものを子供達に与える事が必要ではないでしょうか。

「スカウティングは合作である」と言われるのもそこに有ろうかと思ひます。幸い、浜松地区にはブロック制が有ります。ブロック制は言い変えれば班制度であり、従ってそこには、グリーンパー会議を経て、班会議（ブロック会議）が開られるのであります。此のブロック会議こそ、ブロック内のチームワークを計り、民主的な会議をして、指導者としての自己研鑽の場ではなくてはならないのだと思ひます。だからブロック会議（班会議）は、ただの伝達機関ではいけないと思ひます。互いに研鑽資料を持ち寄り、真直面な話し合いをする事が、ブロック会議だと思います。此の意味からも、ブロック制の強化が必要であろうと思ひます。



初日の出遥拝式 昭和48年元旦
中田島砂丘に400名集う

定例の行事となった新年初日の出遥拝式は本年も中田島砂丘に於て実施することとなり野営行事委員会が中心となり各団に呼びかけたところ、本年は遠くは浜北第一団を始めとして参加したものが400名。盛大に実行することが出来た。

集合時刻は6時、すでに各駐車場は満員、好天に恵まれて大変な人数のなかを浜松地区委員会の旗のひらめく下にスカウトは続々集まり、日の出を前にして式は始まった。折りしも、本日元旦登頂を龍頭山にチャレンジした地区シニア隊の無線連絡の元気な声が拡声機を通じて流れてくる。

三輪地区コミッショナー、内田県コミ

ッショナー等元気はつらつ新年を迎えての訓示やあいさつがあり、声高らかに「弥栄」の三唱を終ったのち、静かに日の出を迎えた。

東方海上地平線の上に雲が横にたなびいているために予定の時刻6時55分より少しおくらせて昭和48年の初日はさんざんと登り始めた。思わず人々の口からは感動の声が流れ、太平洋の怒涛の伴奏を聞き、それぞれ新年へのぞむ決心をしたものと思う。

つづいて野営行事委員の皆さんが奉仕して頂いた手づくりの甘酒がスカウトや父兄に提供され、舌づつみをうちながら暫しの雑談して7時30分頃解散した。

スカウト浜松50号までのあゆみ

第1号 昭和37年7月20日創刊号として発刊。結成団は浜名1、2、4、5、6、浜松1、2、4、6、7、8、9、引佐1、周知1、の14団と登録人員505名であること知る。

ジャンボリーの語源とその歴史、宮沢ひろし氏の日連総会に参加してが主な記事、4頁

第2号 昭37、10、1

当時委員長であった内田六郎氏の「一言」とアジアジャンボリー参加の記事。

第3号 昭37、12、5

「スポーツとBS活動」内田時世副委員長ほか地区大会が11月3日児童会館で行われたことがわかる。

第4号 昭38、1、5

「新春に当りスカウトに贈る」平山市長の記事をはじめ内容も豊富となり6頁、年賀広告も始まる。浜松第10団誕生。

第5号 昭38、3、5

「BS創設前後のイギリス」柳本副委員長ほか連絡事項が多い。

第6号 昭38、4、15

「少年の冒険心」浜松市社会教育課長・高橋俊雄氏の記事と37年度総会の記事ほか。

第7号 昭38、6、15

「カブラリーに思う」ほか5月26日日本体操祭に急造担架作りゲームに出場して特技を披露したことがわかる。

第8号 昭38、7、25

発刊一周年号、このなかで面白いのは「乃木さんとボーイスカウト」スカウト講座の1部であるが乃木さんがスカウト活動で先覚者の一人であること、弁天島の公園内にある「日本青少年キャンプの父、乃木さん」の胸像の由来が述べられている。浜松第11団が6月30日結成されている。

第9号 昭38、10、1

内田博人君が第11回世界ジャンボリーに参加した報告あり。於ギリシャ。

第10号 昭38、12、10

内田六郎地区委員長が、県文化功労者として11月3日表彰されている。

「浜松ボーイスカウト10周年をかえりみて」内田嘉一氏の記事、10月6日浜松市体育館ホールで10周年記念大会が行われていることを知る。10月20日天竜第1団が結成。

第11号 昭39、1、5

新年号らしい記事で一ぱい。

第12号 昭39、3、15

第13号 昭39、5、25

昭和38年地区総会が3月29日行われている。

第14号 昭39、7、25

第15号 昭40、1、10

新春号8頁、浜北第1団(10、25)浜松第14団(12、25)結成、海外派遣報告記事も豊富。沖縄一牧野、スコットランド一宮沢の各氏。天竜市佐久の合同野営の感想等。

第16号 昭40、7、10

第17号 昭40、12、20

10月24日始めてガール、カブスカウト合同で行われた地区大会が報導されている。浜松地区勢力959名。7.26. 浜松第16団結成

第18号 昭41、2、10

新春弥栄の大活字が目目をひく。新春座談会があり、「中近東の旅から」鈴木秀彦氏。

策19、20合併号 昭41、6、1

地区総会で新地区委員長に内田時世氏に決っている。

第21、22合併号 昭41、8、28

岡山県日本原で行われた日本ジャンボリー特輯号で内容豊富。

第23号 昭41、12、18

地区スカウト大会特集号、12月2日杉山・組織拡張委員長がスカウト浜松編集委員長となり、第1回編集会議が開催されている。

第24号 昭42、1、20

新春放談会が各委員長に依って語られている。記録は青葉宏次の大変な御尽力による。

第25号 昭42、5、20

本号より編集責任者が三輪悦爾氏より杉山にバトンタッチされている。三輪氏の今までの大変な御奉仕に深く感謝したい。

拠出金制度を採択した42年度浜松地区総会の記事が主となっている。

第26、27合併号 昭42、9、30

地区合同野営(渋川)の記事を中心として内容豊富

第28号 昭42、12、5

地区大会の記事と教育者とスカウト活動特集として関係せらる古山、斎藤、外山各先生方の御投稿をお願いし11.3三ヶ日第1団が結成。

第29号 昭43、1、25

新春弥栄明治100年のタイトルにそえられた中田島砂丘の遥拝式の写真は今年の参加者から見れば人数少し、時を感じさせられる。

新春放談会が例に依って巾をきかせ、宗教とスカウト活動特集で宗教関係者の御高説をうかがうことができる。

第30号 昭43、3、30

第31号 昭43、6、2

42年度地区総会の報告、可美第1団の結成、5.10現在登録902名(すでに浜名及び天竜地区は別に独立している)

第32号 昭43、9、15

カブスカウト特集。宮沢隊長以下カブ関係者の力作で一ぱい。6月9日に行われた草薙運動場に於ける県大会の模様。竹山知事を名誉連盟長に推薦。9月1日第19団結成式。

第33号 昭43、12、25

11月7日市営グラウンドで行われた地区スカウト大会の記事、なかでも御元氣な姿の内田会長が平山市長と並んでおられる写真が印象的。

第34号 昭44、1、25

新春号、内田会長の「謹賀明治百一年」ほか。

第35号 昭45、6、25

地区総会が新装なる浜松市青少年の家に於て行われ、その報告事項が主。

第36、37合併号 昭44、9、15

8月10日朝霧高原で行われた総決起大会の記事その他原稿多数、編輯子悲鳴をあげ10頁、三輪・フィリッピン、宮沢・アメリカ、小野田・ボンベイ等各氏の海外日より充実。

第38号 昭45、1、15

新年遥拝式から日本ジャンボリーの年の夜明けを感じる。各氏の抱負も力強い。10月26日東小学校で行われた地区大会の記事も詳細に亘って。

第39号 昭45、5、15

地区総会の報告と海外外より。新設団細江第1団(3月1日)浜北第2団(3月29日)

第40号 昭45、7、20

スカウト3倍増計画の現状と今後の計画が中心に——世界ジャンボリーを迎えて——登録人員1,278名を数う。

第41号 昭45、11、15

第5回日本ジャンボリー回顧特輯号とし、巻頭に皇太子御夫妻をお迎えした写真を始めとして各頁共充実した8頁。

第42号 昭46、1、25

世界ジャンボリーの年、新春特輯号として各氏の抱負、11月15日の地区大会記事他。

第43号 昭46、5、1

46年度地区総会の報告と2月21日児童会館で行われたB-P祭関係の投稿がハイライト。浜北第3団のBS、CS、GSの合同発隊式が珍しく2月14日。その他カブ隊がぞくぞくと誕生。

第44号 昭46、7、25

世界ジャンボリー内容の紹介号

第45号 昭46、11、20

第13回世界ジャンボリー回顧特輯号、巻頭高倉清雄氏の迫力あるシルエットの写真を始めとした多数の写真と各位からの投稿。編輯子の苦心によるジャンボリーの記録等自信を以てお送り出来るものが完成した。12頁

第46号 昭47、1、25

この頃よりスカウト浜松に寄せる全員の熱意たかまり原稿山積、投稿する人たちのことを思えば、ボツにすること俛びず遂に20頁に及ぶ内容になってしまった。スカウト浜松の財政をピンチにしまった曰くつきの号。

浜北の県立森林公園で行われた地区大会のたのしい思い出の記事で一ぱい。「愛国心」ほか内田嘉一の各随筆は読者を感動させる。12月26日浜松第21団結成。

第47号 昭47、6、15

47年度地区総会報告、2月20日市立高校講堂に行われたB-P祭の記事。1月16日引佐第二団、3月20日浜北第4団夫発隊式。

第48号 昭47、8、25

渋川川宇連に於ける地区合同野営(8月10日~13日)を中心として。矢田県連現事長と竜口和弘野営行事委員長の訃報が胸をうつ、御冥福を祈る。

第49号 昭47、11、1

県連結成50周年記念海外視察研修アメリカ派遣団帰国報告特輯号。内田嘉一の力作を始めとする三輪、宮沢、齋木、杉山正禎各氏の玉稿にて紙面にぎやか。

以上スカウト浜松のあゆみをたずねてみたがその資料も内田嘉一氏より借用したものである。流石と敬服する。

10年1昔といわれるが、その10年余り50号に及ぶこの仕事。ただ善意と奉仕の精神に支えられてきた過去を省みて先輩各位の御尽力に今更ながら深く感謝すると共に、微力ながら関係させて頂いている一員として、今ここに満足感といったものを感じる。しかし問題はこれからである。果して今まで通りでよいのか。マンネリ化しているのではないかという反省もある。

今後もっと地区の知識人や若い人たちのフレッシュなセンスをとり入れて、より良くするための精進と努力が必要であること痛感する次第である。

どうか皆さんこのスカウト浜松を皆さんの力でもり上げて下さい。

昭48年新春 杉山友男記

従来野営地と浜松、野営地と遠く離れた別な野営地、移動中のグループと本部との連絡に頭をなやましておりました。20団井ノ口隊長(JA2BOD)や有志スカウトの手で、移動ハイクやオリエンテーリングにその効果は充分認められており、購入が検討されておりました。そして今般、出力10W携帯用(12VDC)のアマチャ無線機が購入されました。同時にボーイスカウト浜松地区のクラブ局を開局する様に、井ノ口隊長を中心に準備が進められております。

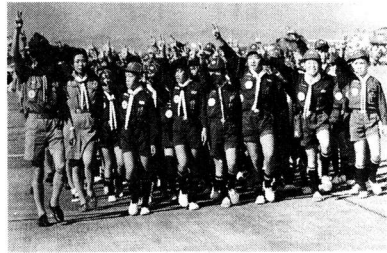
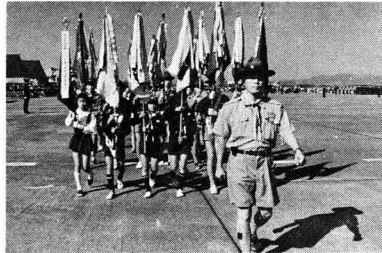
航空自衛隊浜松基地20周年記念祭典

各団自由参加する

昭和47年11月5日 航空自衛隊浜松基地開設20周年記念式典に参加するように航空自衛隊よりの要請を受けたので、浜松地区としては各団自由参加とし、頭初200名の参加者を予定していたのだが、当日式典に参加した数は400余名に達した。

三輪コミッショナーを先頭に各隊旗群、次にガールスカウト約35名、カブスカウト約120余名、ボーイスカウト約270名の堂々たるパレード行進は意気大いに上り立派な行進であった。

パレード行進終了後、航空ショーを見学し、秋空のもと楽しい一日をすごした。



「スカウト浜松」第50号の発刊と
新年の抱負 山下 総太郎

浜北第3団委員長

「スカウト浜松」が、今回第50号の発行となり、奉仕者の機関紙として、大きな実践をされました。

もちろん、浜松地区スカウト活動の歴史もすばらしいものがあります。さらに、本年は、日本ボーイスカウトが結成51年目、わが静岡県連盟は52年となりました。

その中で、竹山県知事が先頭になって推進された、あの広大な朝霧高原に世界87ヶ国からスカウト約2万余名が参加して、第13回世界ジャンボリーも意義ある大会となって、見事に成功しました。

こうした昨年の状況の中から考えまして、本年は一段とボーイスカウト活動プランにとって、重要な課題があちこちにあるではなからうか。

そこで、私たちは新年に当り、今後、積極的に青少年の健全育をはかるべき時だと思えます。それは①青少年団体(ボーイスカウト)活動の促進。②青少年指導者の養成と確保であります。スカウト関係者の皆さん、次第を背負う若者たちのために、私たちおとなは何をさておきこの問題に、しんげんに取りくもうではありませんか。

ここで、カブ、ボーイ、シニアスカウトの皆さんに、私の体験の中から私が日ごろ心に決めている「言葉」をおくりまします。一つは、人に必要とされる人間になることでもあります。二つめは、人に愛される人間であるということです。ほかの人に必要とされる人間になるということは、どういうことかといえますと、その人が良い腕を持つということだと思えます。このことにかけては、おれは誰れにも負けないという腕を持つ。そうすれば人に必要とされる社会が必要とする人間になることではありませんか。

紙面の都合でこのへんにしますが、最近の若者は、夢がないということを言われますが、でも私の夢は、はてしなく大きく、その目標は、はてしなくはるかなのです。私は、その目標に一歩でも早く近づくためにスカウトたちとしっかり手をつないで努力をしたいと思うのです。私なりの努力を。もちろんそれは成功のための努力、その努力こそ、ほんとうの成功であり、自由な方面に努力できるものが若者の特権だと思えますが、いかがでしょうか。

地区内に
アマチャ無線機を装備

購入された機械は早速、地区大会(ジャンボリー・オンジ・エアの日)にテストされ、浜松一細江公園がスムーズに交信されました。さらに11月12日、浜松4団SS隊の背中にのせられ竜頭山頂に運ばれ、交信テストされました。0.5mの電線で自作したアンテナにして、軽自動車からはづれて重たい思いをして、かつぎ上られたバッテリーにより、正后より電波が発信され直線で約40km離れた井ノ口隊長と、となり家と話している様に交信が交わされた。入力も強くメーターが

大きく振れる。浜松4団SS隊は、竜頭山から出力1Wのハムで、遠く離れた伊豆八丈島や伊那治武坂峠とも交信しており、今後地区内SSの手で有効に使われる事を希望している。

このアマチャ無線機の購入により、野営地との交信ばかりでなく巾広い運用がなされ、B S隊やS S隊の活動がさらに飛躍される事が期待されている。なお、アマチャ無線についての問合せは下記へ照合下さい。

井ノ口泰三(JA2BOD)20団B S隊長(浜松市入野町 TEL47-1352)

キャンプライジングサン

浜松18団シニア隊 影山克明

それは、6月30日から8月29日までの二ヶ月間、アメリカ合衆国、ニューヨーク市の北、約百kmのライネベックという小さな町の郊外の緑にかこまれたキャンプ地ですごした、すばらしく、また苦しく、いろいろ考えさせられた長くて短かった夏。世界中からおどりこんでくる若者のエネルギーの結集される所。

このライジングサンに参加するためには、毎年日本のどこかで開かれる、読売新聞社主催の全日本学生キャンプに参加しなければなりません。というのは、その参加者のうちから一名が、日本代表として、ライジングサンに派遣されるのです。ライジングサンは、アメリカのルイスジョーナス財団というところが運営しています。その財団のもち主がジョーナス氏というもう70過ぎのとてもユーモアにあふれた人です。彼は、ライジングサン運営をもう44年間も続け、すでに2千人以上の少年をライネベックに招いています。毎年、アメリカ人が40人ぐらいに、外国から20人ぐらいが参加します。今年は、日本、インドネシア、マレーシア、シンガポール、イラン、トルコ、エチオピア、ナイジェリア、ガーナ、ギリシア、ユーゴスラビア、ポーランド、フランス、オランダ、デンマーク、ノルウエー、フィンランド、ブラジルから各々一名づつ。年はほとんど15、6才の少年ばかり。

キャンプライジングサンということからもわかるように、それは、キャンプ生活の基本になっています。小高い丘に、床つきの大きなテントが12はられていて、1つのテントにベッドが5つは入っている。テントの中は毎年参加したキャンパーの落書きでいっぱい。ここが、2カ月間のキャンプ生活の基本となるキャンパーの家。そのほかに、誰でも利用できる図書室兼レコード鑑賞用のキャンパーラームや、60人が一度に食事する大きなダイニングルーム。ボーイスカウトのキャンプと違って、食事はすべて、通称『ママグリン』という黒人のおばさんがつくってくれる。このキャンパーラームとダイニングルームは、二階建てのオールドハウスというまっ白な家にある。もう一つ、ニューハウスといって、カウンセラー（リーダー）の会議する室と、キャンパー全員の討論につかわれるニューキャ

ンパーラームのある新しい家がある。また、キャンプ場には、サッカーフィールド、テニスコート、バレーコート、卓球台などがそろっている。これらが、キャンプライジングサンの行なわれた環境とすることができる。

ライジングサンは、内的にも、ちょっとボーイスカウトのキャンプとは違っている。ライジングサンそれ自体が小さな社会の縮図であり、世界の縮図でもあるのです。黒人、白人、目の黒い人、青い人、社会主義国からきた少年、開発途上国から来た少年、シャイアンの踊りをみせてくれたインディアンの子孫というニューメキシコからきた少年、それらが、ライジングサンで、二カ月間共同生活をするのです。

毎日、午前中はインストラクションといって、カウンセラーが、宗教や、アメリカの民主主義とか野鳥の生態、ピアノのレッスンなど、幅広い講義をしてくれる。カウンセラーだけでなく、キャンパー自身がどんどん問題を提起して討論をした。午後はコンストラクションといって、自分の特技を生かした工作や、キャンプ地の整地や、ペンキ塗り、絵をかく者もいれば、丸木をのみできざむ者もいる。これらは、すべて自分で選ぶことができる。何一つカウンセラーから強制されるわけではない。極端に言えば、一日中、テントで寝ころんでいてもいいわけだ。だが、そんな者は一人もいない。みんな、なにかしら、プロジェクトに参加し、協力し合って、とり組んでいた。自由時間もたくさんあるので、その時は、水泳や、テニスをしたり、ちょっとした話題をみつけて数人で話をしたりした。

毎週金曜日の夜は、フライデーナイトプログラムといって、おもに、キャンパーによる劇や、演奏があり、土曜日の夜は、全員で、キャンプファイヤーが行なわれる。その時、ジョーナス氏やカウンセラーの話がある。ジョーナス氏はいつも心に残ることを言ってくれる。哲学とは、これから自分たちが生きていく生き方が哲学であるとか、世界中の言語のなかで、一番だいたいな言葉は『なぜ』と聞き返してみるのだとか、自分が今まで、このキャンプを続けてきたのは、世界中の少年に、ライジングサンで、自分とは

違った考えや、国民的背景を持つ少年を知らさせ、自分自身の哲学を持たさせるためであるとか、そのたびに、疑問を感じ、また新しい考え方を得たような気もした。キャンプファイヤーのあとで、ジョーナス氏にもう一度同じことを聞き直してみたり、友達と話しあったりした。夜、ほかのテントに行って、いつまでもしゃべっていて、何度もカウンセラーにおこられたこともあった。

外国から参加したキャンパーは5日間、ワシントン見学に行くこともできた。また、自分の希望で、カヌー旅行や登山にも行けた。カヌー旅行は、キャンパー7人とカウンセラー2人で、ニューヨーク州の北の無数に点在する湖を4日間こぎまわった。湖と湖の間に小川がないときは5kmぐらい、重いリュックに、テントをかついで、さらにジュラルミンのカヌーを2人で肩にかつがなければならなかった。4日間まったく太陽が出ず、夜はさむくてさむくて、火のそばを離れられなかった。カヌーははじめてだが、あんなおもしろいことはない。

今、ライジングサンの目的は何か、ということにはっきり答えられないかもしれない。しかし、今まで、教科書や新聞などを通じてしか知ることのできなかった国の少年たちと生活して、その生活や習慣の違いに、あらためて驚ろき、さらに、同じような考えをもっていることに、それ以上驚きもし、何か、国境とか言語とかあらゆるものを越えた若者のエネルギーのようなものを感じた。今は、たしかに小さな輪かもしれないが、今から何年後かに、それは、地球をすらとりまく大きな輪となっているだろう。それこそ、ライジングサンの目指すものではないだろうか。



竜口団委員を憶んで



第13回世界ジャンボリーの途中で

今から16年前の7月7日の夜の事です。誠心高校の校庭でかがり火がたかれ、ボイスカウト浜松4団が生まれました。そこにいる団委員の大部分は自分の子供がまだスカウトに入っていない人ばかりです。明かるい町作りのひとつとして、町内有志の人達が集まり作られたのです。そしてその精神が続けられ、いまだに結成当時から団委員をやっている人が5名もおります。そしてその中の1人が竜口さんです。

大正11年10月12日、天竜川上流にある下伊那郡山吹村に生まれ、昭和24年12月

に現在の浜松市高町に移転されました。アダムスポーツ服装株式会社取締役社長として業界に活躍するかたわら、BS浜松4団副団委員長、浜松地区野営行事委員長としてスカウト活動に貢献されました。スカウト一家としても知られ、奥さんはGS24団結成以来の団委員、長女の方はGS隊員そしてリーダーに、長男の方はBS、SS、今は日大在学中、次男はBS班長として活躍中です。

温孝な人柄である為、自まん話はしません。泥だらけのジャンボリーを2回体験しております。初めは「あいばの」で開かれた第2回日本ジャンボリーです。台風が夜半、会場の上空を通過し、テントの支柱をだきかかえたままねむっております。朝霧高原での見学に行っております。始めは4団だけの見学バスが、いつのまにか同じ日に行くバスが後につながり、大見学団の指揮者になってしまいました。その為に休息場所や時間の指示、人数のチェックと、雨の中を走りまわる事になってしまいました。

地区が大きくなると時々、団委員と指導者の対立を耳にする事があります。又その為につぶれた団もあります。運営と教育が分離されているのがあやふやになるからです。竜口さんの場合には、教育をまかせると同時に指導者を信頼している事が言葉の端々に出てきます。特定の後援団体のない4団は備品をそろえればその分が父兄に負担がかかります。アダムスポーツ服装にある見本のテントやシートがいつの間にか使ってしまう商売用にならなくなった事もあります。以前は

いろいろな家庭の子供が入り、隊費を払えない人もありました。必要以上にスカウトに金の事を言わないので滞納が美德になり、運営に支障をきたし団委員のポケットマネーで処理された事もあります。団のクリスマスは当初は団委員長のお倉の中で、GS24団と共催する様になってからはアダムスポーツ服装の工場で行った事もあります。その頃はまだデコレーションケーキがめずらしく、竜口さんや団委員のポケットマネーで1人1人に渡されました。今でも成人したスカウトからケーキが楽しみだったとなつかしむ声があります。

地区内には指導者がいなくなり、つぶれた団もたくさんあります。4団でもBS、SS隊指導者は団の所在地より遠く離れております。ある年に指導者が転勤でいなくなりそうになりました。いよいよいなくなれば運営担当者の手でやろうと云う事で、竜口さんと数人の団委員が指導者養成講習会を受けております。しかし、受講しても指導者がいるかぎりは教育面はタッチしませんでした。この当りに地味ではあるが4団の長続きしている原因があるのではないかと思います。

残念な事に7月21日ご療養のかいなく竜口さんが急逝されました。竜口さんがいない事は誠に痛手です。しかし結成の精神を受けつぎ、さらにスカウト活動を発展させ、長続きしなければなりません。竜口さんの業績は浜松4団、浜松地区の歴史の中にいつまでも残ります。心から感謝の気持ちをささげると共に、つつしんで哀悼の意を表します。

昭和47年度登録申請状況

区名	カブスカウト隊		ボイスカウト隊		シニアスカウト隊		ロープスカウト隊		団委員	合計				
	CS	DC	DM	DD	指導者	B	S	指導者						
浜松1	42	6	6	4	31	5	17	2		8				
4	36	3	4	6	28	4	9	2		8				
6					12	2	8	1		5				
7	25	4	6	3	28	3	8	1		10				
10	28	8	4	6	62	7	17	(1)		12				
11					53	9	15	2		7				
12	22	3	4	5	47	4	24	1	15	1	13			
13														
14					24	2	12	3			12			
15	36	4	6	3	4	61	7	20	1	15	1	27		
16	10	3	3	4	39	3	15	1	班7	2	7			
17														
18					48	4	18	1				16		
19	28	4	5	4	4	29	4					8		
20	48	8	8	4	4	35	3					8		
21					15	2						7		
22														
浜北1	22	4	9	6	4	28	4	14	1	班6	1	11		
2	35	4	3	6	4	18	4					17		
3	26	2	4	4	4	19	4					8		
4					14	3						14		
河東1	44	4	6	4	4	32	4	班5	2			7		
瀬江1	35	5	5	4	4	55	4					10		
引佐2					15	4						6		
三ヶ丘1					19	4	13	1				12		
計	847	564	71	34	60	712	90	195	19	43	5	233	1,397	512

「ジャンボリー・オン・ジ・エアー」

浜松第4団 SS隊

毎年10月の第3週の週末にはアマチヤ無線によるスカウト同志の交信が交わされます。おたがい顔は見えなくとも、相互理解と親善に大きな役割をしております。

例年の通り、今年も年間プロに予定していた我々は、例年の通り20団井ノ口隊長宅に押しかけた。ただ今回は、井ノ口隊長宅が建築途中であるので、その吹きさらしの3階に機械と寝袋を持ち込み実施した。アンテナは井ノ口隊長の大きなアンテナを利用し、セットは隊員の「ヤエス、FT200S」。オペレーターは隊員の「JH2AGT」と「JH2QNU」で5名の隊員は記録やアンテナの向きをかえる事に専念した。

「CQ、ジャンボリー」に初まる呼び出しに最初に応じたのは、市内18団の「JH2JSL」と10団の「JH2AEW」であった。規定周波数で呼び出しても例年なら出力の大きい井ノ口隊長のセットで世界の人が答えてくれるが、今年はない

かなかなか出ない。出たとしてもスペイン語や早口の英語で理解出来ない。比エイ山頂からは例年同様に「JA3YCC」が出ているのが判る。地区大会の予定されている細江からの井ノ口隊長との交信は誠にスムーズに出来た。

22日は、スカウトに関係なしに交信をする、アンテナをWSWに向けてと沖縄の電波がジャンジャン入る。

正午で今年のジャンボリー・オン・ジ・エアーの参加を打ち切ったが、気のついた事を述べてみたい。

- ①参加者全員がアマチヤ無線の有資格者になる必要がある。
- ②語学力がないと各国との交信は出来ない。
- ③スカウト関係者の参加が少なすぎる。当団は今冬も秋葉山から山住の従走を目指しており、連絡用無線を使う事になっている。その為の準備ハイクを11月に行う予定である。アマチヤ無線の仲間が、もっともっとふえる事を希望したい。

昭和47年度ボーイスカウト浜松地区大会は 細江町立気賀小学校講堂で開催される

10月22日 天気 雨 待ちに待った、浜松地区大会があいにくの悪天候にたたかれて、会場を講堂に変更して、カブ、ボーイ、ガールスカウト等関係者を含めて、約300余名が参列して、盛会袖に行なわれました。

第一部は、浜松に、16団のカブスカウトの鼓笛隊によって、開会されました。まず声高らかに国歌を斉唱し、物故者への黙とうがあり、前年度の浜松地区大会ですぐれた成績を収めた隊から、優勝旗の返還がありました。つづいて、大会

会長およびガールスカウト代表のあいさつがあつて、感謝状の贈呈並びに地区表彰を行なった。中でも、善行者の表彰の時は、カブスカウトをはじめ会場から、さかんな拍手がおこりました。最後に、来賓の紹介および祝辞をいただいて開会式を閉じました。

本年は、ボーイスカウト日本連盟が大正11年、少年団日本連盟として結成されてから、ことして50周年を迎えた。このため、11月上旬の一週間をスカウト週間と定め、各種の記念行事が全国各地で開

催されたことと存じます。

わが、静岡県連盟は、創立以来51年を迎えこの永きにわたり青少年健全育成に全力をあげ輝かしい伝統を築きあげたものと信じております。そこで、これを記念して、発祥の地静岡市城内小学校にスカウト像を建立し、11月3日（文化の日）に除幕式が行なわれました。

こうした長い歴史の中で、すばらしい実践をふまえて私たちは、これから新しいスタートをきろうではありませんか。

浜松4団 野口光一

奉仕活動を考える

スカウト活動にとって奉仕とは切りはなせないものであります。しかし、信仰のない人にとって、又、願いと感謝の気持ちのない人にとっては、奉仕と云う言葉が理解出来ないのではないかと考えます。

スカウトのプログラムには、年間を通して奉仕と云う文字が入っております。スカウト活動の目的は、成人指導者の協力で青少年が自発活動により、良き社会人となる教育をする事にあります。そして、スカウト活動に入る時の誓いには、その奉仕の心と宗教上の事が入っております。

なぜいつもこの基本的な事を私が言っているのかと云いますと「奉仕」イコール「ただ働き」とまちがえられる事が多いからです。「ただ働き」や「物資と金銭の提供」は、その実施方法によっては真の奉仕にならないからです。

(その1)

ある宗教団体の人と話している時、「慰問は相手の事を考えて行なわないと人間をだめにする」と、説明を受けた事があります。それは「慰問する人にはクリスマスを一諸に楽しもうとわざわざいろいろな物を持って来るのかも知れませんが、その季節には各種の団体が同じ様にやってきます。受ける側してみれば笑顔を見せてお礼を言わなければならない。そして、それが年間を通じ行なわれるとお礼を言えば物がもらえ、勤労意欲をなくしてくる」と、その人は話してくれました。あるジャーナリストは「同情は相手を見下げる事で連帯を拒否した時に生まれる」と私に話しています。

(その2)

シニアスカウトが集会の時ばやきました。「自分達のプログラムは、隊にあつ

てはいろいろ出来るけど、他と集まる時は強制労働ばかりじゃないか」これは指導者にとって耳が痛いと同時に、プログラムの展開不足を痛切に感じます。

ボーイスカウト運動がアメリカに伝わった物語はあまりにも有名であります。いつも我々指導者は、この事をかみしめなければなりません。あたりまえの事をいつでも自分の意志で実行出来る様に、あなたはスカウトを導いておりますか？押しつけの善意でなく真の奉仕とは何であるか、まず指導者が再考しなければなりません。今のプログラムを、そして指導者の研修をもう一度検討してみる必要があります。基本をわきまえてこそ目的が生かされ、奉仕活動が出来る時だと私は思います。

B P 最後のメッセージ

- セシル・ローズが死に直面して、
「ああ 我れ 成さんとすること多し
然し 時はそれを許さず」
われ、自らも同様の事を言いたい。
- 短い人生において、大きな仕事を始めようとする者は、その最初には消耗を感じない。
- スカウティングの開始当時より今日迄、貴重な体験をして来た。
この運動は今や躍進の段階に達した。
この運動を進めて行く上において、諸君の如き成人指導者の協力を得た事を感謝しなくてはならない。
- 諸君は、常に目を見開いて、良き後継者を捜し、かがり火を受け継がせねばならない。
この運動は、愛国精神による任意の運動であり、俸給取りの組織としてはならない。

- この運動は、短期間に大きな支持を得て伸びて来た。
健全にして、幸福なる社会を構成する為に、狭量にして利己的、政治的のものを除去し、犠牲的人類愛に奉仕をして来た。
- 人々の善意と協力により、国家相互の協調によって伸展して来た。
- 過去の経験より、平和と幸福に貢献して来た事が示される。
そして大なる繁栄に尽くす事が出来る。
- 将来、父となり母となる青少年男女の為に、大きな貢献をしているのである。
- スカウター、そしてガーダーは、神の命に従い、世界平和の為に、偉大なる奉仕をしている自覚を持って努力されたい。
- 余は諸君に哀心より敬意を表したい。

バーデン・ポウエル

ぼくらのページ

スカウト三ヶ日創刊

今回三ヶ日第一団では、シニアの人たちによってスカウト三ヶ日が創刊されました。

関係者は、編集長白井良和、編集委員佐藤展之、印刷部長外山和博の諸君です。

創刊号の中から一部の記事を転載させて頂きました。大変でしょうが今後共つづけて下さい。

CAMP in 扇山

シニア7名、ボーイ15名による扇山野営はけが人、病人もなく無事終了しました。雷や雨などややかいなこともありましたが、ボーイたちも一段と成長したようです。

8月25日、先発隊のシニアは午前7時少し前に三ヶ日駅前出発、徒歩で3時間かかって、扇山に到着しました。天気は曇りで、雨が気になる空もようでした。設営、炊事も順調に進み、流しそうめんなどをやって無事に過ぎていきました。

さてあくる朝、6時ごろテントに激しくたたきつける雨の音で目をさました。それから雨はすぐやみ、ラジオ体操をやり、朝食のかたづけなどをしながらボーイたちの到着をまったのです。9時ごろボーイたちが到着し、設営などを始め、寺跡が活気づいてきました。午後からはシニア主催の講習会が行われまし

た。内容は、国旗掲揚法、縛材法、お釜の洗い方とか流しそうめん学、歌などシニアの知っていることをボーイに受け継いでいってもらおうという考えから行なわれたものです。

さて、いよいよ大営火なのですが、点火した直後に局地的な豪雨のため山小屋に避難。なんとも残念な営火でした。でも小屋の中で聞いた、須賀隊長の怪談はとて恐しく、今夜はうなされそうだなアという声もきかれました。

次の朝は幸い快晴。すでに秋を思わせる青空がとてさわやかでした。この日は全員でラジオ体操。とても気分がよかったです。朝食をとったらハイキングの準備です。おにぎりを作って扇山の頂上へ、みんなフーフーいってのぼりました。頂上についたら曇り始め、風もつめたくなってきました。下山して、徹営です。いよいよ野営もおしまひ。いつも感じるのですが、さびしいですね。むかえの車が午後3時ごろ出発。役場に一度集合して、隊の備品をかたづけ解散となりました。

訓練野営参加感想

シニアスカウト隊長 須賀一司

夏休みも残り少なくなって勉強の整理にいそがしくなってきた時、外山上級班長より訓練野営のプログラムを受理した。勿論内容は精密なものではなかったが、

BS浜松第4団

カブ隊夏の舎えいくんれん感想文 樽井克典

8月6日、カブ隊の舎えいくんれん出発の朝だ。この日から、9日までが、奥三河青年の家がぼくらの家だ。

浜松みなみ駅、新かんせんでぼくらは、浜松をあとにした。ぼくは、うれしいようなさびしいような、へんなきもちがした。15、6分だとよ橋へとうちゃく。飯田せんへのり、一時間くらいたって東栄へ。バスにのり、ついに奥三河青年の家。いちばんおどろいたことは、どちらをみても山、山、山。ぼくは、作文で奥山のことをかいたが、それも、くらべものにならない。「いい所だなあ」と、思った。

それと、おどろいたことがもう一つある。はくぶつかんと、みんぞくかんだ。はくぶつかんは、はくせいのとりのや、なかでも、もぐらにはおどろいた。民ぞくかんだでは、大きなほうちょうやナイフなどにもおどろいた。そんなりっぱなてんじ品をみて、自分たちのへやへもどった。「ワイワイ、ガヤガヤ」みんなさわいだし、しゃべったりあべれたり。なかとはしづかにスケッチをした人があった。そんなことをしているうち、夕食になった。さあ、ねるときだ。やはりうるさかった。「よそうはあたたた」そうおもった。うるさい中でねた。

二日目だ。朝食をすませ、明神山へ出発、「よいしょよいしょ」と、いっしょうけんめいのぼった。「なあんだ、こんな山へいきだ」と思っていた。が、きゅうにつかれがおそってきた。「苦しいな」おなかはからっぽ、のどはからから、おまけにわるいみちなので、あしがおもくていたい。休けい、やと水がめるとおもったら「水はつかれるから、のんではいけません」といわれた。ぼくは、それをきくと「ええ、つかれたのに」と思い死にたくなってきた。リーダーが「かぐごしておけ」と言ったとき、かえって青年の家でねていればよかったと思った。出発、まだつかれもとれていないのに、と、ぶつぶついつて下を向いて歩いた。「これはかぶれだ、あれは、どくむしだ」と注意しながら、歌をはらのそこから思いつき出した声でうたった。

ころんできて、おもたい足を歩かせながら、「ついついたぞ、ちょうじょうだ」べんとうをたべながら、たかいところから見るいいけしきを見ながら、みじかい時間をたのしくすごした。おりるときも、のぼるときくらのくるしみを味わった。

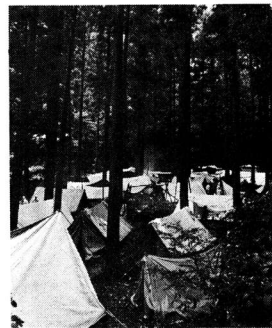
その夜はみんなぐつすりねた。ぼくは

とにかく内心うれしかった。やるな、と思いきやシニアスカウト隊の1人1人の顔がほうふつとしてかすめた。

一泊野営あるいは二泊野営の目的は、野営の実習である。野外での生活に必要な技能の実習とゲームがプログラムの主たるものである。できるだけ気持よく寝られるように、又、食べられるよう、そして排泄が順調であることが野営生活上最も必要なことである。この3つが野営生活の原動力である。

さすがシニア隊のチームワークの良さ、ボーイスカウトの指導もりっぱなものである。設営についてのアイデア等の良さも内容の深い地についたものであった。もちろん、いまだ欠点はあるがとにかくよくやったと思う。終わったあとの反省会もすぐ行ない次へのふみ台となす心掛け、忘れないようにしたいものである。

彼ら1人1人の心の中にもえているスカウト精神はやがてりっぱな社会人になったあかつきにもきえる事なく、第二第三のスカウトとして、豊かな人々をつくってくれるものとたく信じて、君達といっしょにキャンプのできる私は幸福な1人と感謝して筆を置きたいと思う。



「きょうはよかったなあ」と思った。

三日め、朝とつても家にかえりたくなくなった「子犬はどうしているかな」とおもった。その日、テレビとう見がくにいった。あせをながしながらいっしょうけんめいのぼったが、みておどろいた。あるのはアンテナだけだから。もつとかつこよくて、大きいとおもったのに、がっかりした。

四日目、きょうはついにかえる日だ。バスにのり、電車で一時間半のつた。そして、ついにしんかんせんで浜松へ。なんとなく一年くらいいたよなきがした。「帰りのことば、樽井くん」ぼくがよばれた。「6日から9日まで、夏の舎えいを、えーといっしょうけんめいやってきました」ぼくは、あせってまちがえてしまった。賞はマイペース。だから、これからもマイペースでやっといこうとおもった。

こんどのしゃえいは、苦しかったが、とてもぼくのべんきょうになったと思っている。

カブの舎営

BS浜松第4団CS 安見和彦

8月6日から8月9日までは浜松へ来てから2回めの舎営で東栄町へ行きました。とよ橋まで新幹線でとよ橋から飯田線でした。

とまる所は東栄荘という所でした。着いた日は近くの博物館に行きました。その時は館長さんがよく話してくれました。7日は明神山へ行きました。明神山はすぐ近くだと思ったら行くのにずいぶんかかりたいへんでした。やっと登れると思ったら山道の大へんなこと、とても息で草ぼうぼうでした。けれど上で食べたべんとうはとてもおいしかったです。それで歌ったのでとても楽しいでした。

そして帰るも歌などを大声で歌って帰りました。その日は、つかれたのでぐっすりねむれました。8日は水泳のあった日でした。午前は山で午後から泳ぎました。泳いでいる時はさすが、みんな楽しそうでした。魚を取ったりビーチボールで遊んだりしました。最後の日はみんな、もっといたような顔をしていました。けれど電車の中でほかのたいの人と会ったりして心もほぐれました。そして楽しく浜松に帰って来ました。それにスカウト賞という、すごい賞も、もらいました。家に帰っても「もっといたかった」の連発でした。

舎営の思い出

浜北第1団カブ隊 国井俊二

8月6、7日と2日間に渡って、奥山でくん練がありました。その中で、ぼくはゲームをやったことが一番の思い出です。ほかの団の全然知らない人達と、すぐ友達になりました。

まず、最初のゲームは組旗づくりです。ぼくたちの旗は、カブスカウトのクマのマークのデザインの旗にしました。それも一番早く旗を作れました。部屋に入り、応接間でぼくたちの組は表彰され、1位の印を旗につけてもらいました。ぼくはとてもうれしかったです。です。

あとのゲームは、いろいろな種目別で得点がつけられ、順位が決っていきます。種目は、じぞう数、M、矢、落し物あて、馬とび、位言、などのゲームですが、どれも得点が悪く、良い成績ではなかったので残念でした。最終結果は、4組が1位、そしてぼくたち1組が2位でした。1位にはメダルが贈られましたが、どうしても心残りでした。

一番きびしく感じたのは5時半に起きて、6時から30分間正座をするのが、いつもしていない生活なので、きびしいと思いましたが、案外うまくいきました。めんどうくさいなあと思ったのは、食事をする時、いつも食事5観をいうことで

す。これも、いつもくばるとすぐに「いただきます」といって食べていたからです。でも、2回、3回と重っていくと慣れてきました。

ぼくの部屋は201でしたが、301になりました。わている時は306の人達がやかましかったので、よく隊長のいる所へいきました。

2日間と短かったキャンプでしたが、とても楽しく、今までで最も良い思い出になりました。

舎営の思い出

浜北第1団カブ隊 馬渕新吾

8月7日、8日と一泊二日で奥山の青壮年研修所に行ってきました。ぼくが一番心のこったのは、2組の組長になったことと、60メートルもある坂をロープを持って登ったことだった。

組長の仕事は、組員12人をしっかり並べたり、注意することだった。初めのうちは、みんなとなれなくてうまく話ができなかった。でも、組で共同で組旗を作っているうちに、だんだん仲良くなり、自然に話もできるようになった。さて、これからだなど自分に言いかけた。なれると楽になるが、最初は、とてもいそがしく感じた。何か用事があると、すぐ組長をよぶような気がして、とても大変だった。でも、最後になって、自分の仕事をなしたげたと思うと、すっきりした。

2日目の坂登りは、とても良い思い出になった。40度から45度位の坂道をロープを持って一生懸命のぼった。やる前は「できるかな、足をふみはずして落ちてしまわないかな」と思うと、こわくて胸がドキドキした。さあ、ぼくの番になった。しっかりロープを持ってどんどん登った。そうしたら、こわいなどという気持は全然しなかった。一番上まであと3メートルか5メートルという所でステンスべってしまった。でもロープをしっかり持っていたので助かった。そして、とうとう無事の上まで登り切った。

ぼくは、この舎営キャンプで2団、3団の友達と仲良くなれて本当に良かった。また、団体行動をしたことが、とても良い勉強になったと思う。

舎営の思い出

浜北第1団カブ隊 小和田寛幸

カブの舎営キャンプが8月7、8日に奥山の研修所で行なわれました。暑くて暑くてたまりませんでしたが、研修所の中は大変すずしく、すつとしました。きれいな部屋で、景色もよく見えました。夕食のあと、お風呂に入りました。とても広いのでびっくりしました。つぎは、大広間で発表会です。きんちょうしたので、いろいろまちがえてしまいました。あとから、みんなに「まちがってごめんね」といったら、みんなも「まちがえちゃった」といいました。

朝早く、大広間で座禅を25分間組みました。おぼうさんは「だれでも一回はたたきます」といいました。前の人は一回しかたたかれなかったのに、ぼくの所へきて「パンパンパン」とたたかれました。ちゃんとしていたのに、ぼくは「なぜ何回もたたかれたのかなあ」と思いました。

そのあと、いろいろなゲームをしました。ロープで山を登ったり、木の上につないであるロープにつかまり、向こう岸に行ったり、いろいろなことをしました。なかでも、一番楽しかったことは、山に登ったことです。ターザンでかかとをうってしまいました。

来年はボーイですが、キャンプに大いに参加したいと思います。

しゃえいの感相文

浜松第4団 小野勝久

カブスカウト4団のぼくたちは、むねをおどらせて3泊4日のしゃえいくんれんにいった。いった所は、愛知県東栄町おく三河青年の家だ。そこは、とてもたくさんのおたてものがあるすばらしいところだった。

しゃえいは、ぼくのやりたいことばかりだった。だけれどもやっぱりいちばんたのしかったことは、山登りだった。心のこっているのだから「ぼくたちは、カブスカウトで、7時間半も明神山という山をのぼりおりましたぞ」と友だちにいぼってやった。

明神山は、なんべんいってもいいところだと思った。山のちょうじょうは、空気がとてもきれいだ。そして、とちゅうにぎんめい水という水もあるし、山の下の方には、さわがにのとれる水のきれいな川もあった。ぼくたちは、この川でさわがにをとった。けれどもぼくは、一びきしかとれなかったのもカブの友だちへやってしまった。でもぼくがほんとうにみたかったのは、はく物館と民ぞく館をみるということだった。はくせいなどをみてみると、自分がはくせいを作ってみたくなる。

いなかなので、およげる川もあって水泳のくんれんもやった。

ことしのしゃえいは、ながいと思って「あっ」という間に過ぎてしまった。4団では、まい年しゃえいがおわるといろいろなしょうのリボンをくれる。きょ年「あまたでしよう」をとったので今年はずん力をつくした。でも、もしかた長が「あまたでしよう」などくれたら、ぶつとぼしてやりたかったぐらいだ。だけれども、今年「たのしかったでしよう」をもらったのでとてもうれしい。しゃえいでは、1日じゅううたったのでこえがかれてしまった。

今度のしゃえいは、とてもためになつてよかった。くたくたになつたけれど、やればできるといことがつくづくわかった。

ぼくたちの舎営キャンプ

浜北第1団カブ隊 加藤 俊宏

奥山研修所に着くと、かいだんの前で、新しい組長と次長を決めた。そのあと、すぐ組旗づくりをした。ぼくたち六組は、矢章を六つ書き、その上に赤のクレヨンで「六」と大きく書いた。よく見ると、われながらうまく書けたなと思った。

一組から六組まで、それぞれ組ごとに分かれ、各組の部屋が発表された。ぼくたちは207号でした。「あんまりいい部屋ではないみたい」と思っていたが、とてもごうかできつくりした。食堂もちゃんとあるし、入浴もいっぺんに50人位は入れる、とても大きい所です。

この2日間、一番印象に残っているのは、朝5時30分に起き、6時から45分間ぎぜんを組んだことだ。おしょうさんが、姿勢が悪いと、棒でたたかれたことだ。うれしかったことは、3団の人と友達になれたこと、そのほかいっぱいいいことのあった2日間でした。帰るのがおいしいような気もしました。とてもうれしく、楽しい2日間でした。

夏の奥三河舎営

BS浜松4団CS 牧野 隆彦

8月6日の朝の8時50分までに、ぼくたち4団のカブは浜松南駅に集合した。みんなのお母さんたちが見送りに来てくれた。そのときの空がくもりだったので、天気がいまいだった。新幹線、とよ橋まで行って、とよ橋からいっだ線東栄という所まで行って、そこから東栄町までいった。ぼくは、青年の家が小高い山の上にあるとは思いつかなかった。昼食をたべて、はくぶつ館へ行った。三よう虫がいた。木の葉の化石があった。どうぶつやとりのはくせいがあった。ぼくは、はくせいがほしいなど思った。びっくりしたのは、六本足のかえるがおるとのことだった。民俗館にはいった民族館にはこがらし文次郎のあみがさやかっぱみたいのがあった。所長さんが「これは、しょうや屋さんが雨の日、きた道中がっぱだよ」とおしえてくれた。

とても小さなミシンがあった。まんじゅうがさもあった。さびてたが、かつこいいじゅってもあった。このほとんどは、近所の人がかれたらしい。ぼくだったら大事にしまっておくのにと思った。夜の散歩の時、みんな、かい中電とうをもっていった。ぼくの組は近くの幼ち園で、少し遊び、林間学校で来た人たちがキャンプファイヤーをやって少し見て部屋に帰った。ふろに入った。

そのあと大きな部屋にみんなでいった。隊長が「ぎぜんしろ」といったのでみんなやった。十人ぐらいたたかれた。ゲームもやった。リーダーが、はくてんをやった。とてもかっこよかった。ねる時間

になった。ぼくは、12時ごろやつとねむれた。

8月7日、朝おきて、ふとんをたたみ、セレモニーをやった。きょうは明神山へ登る日だ。むねがわくわくする。組長のハバザックに、おにぎり、おやつを、つめこんだ。出発した。ハバザックは、こうたいでもって行くことになった。はじめはひろい道だったが、さわを、わたると急な道がある。と中にハヤが泳いでいた。ぼくは一びきでもいいから、ほしいなあと思った。と中、銀明水という所があったので、そこで休んだ。

そこには、とてもきれいで、つめたい水があった。と中、ぼうをふんだらガサガサといったのでぼくは、びくっとした。頂上に着いた。おにぎりを食べようとしたら、ベッチャンコのが一つあったのでぼくがまんして食べた。けしきが、とてもよかった。歌も歌った。写真もとった。遊んでから、山をくだった。沢の所で遊んだ。ぼくは羽黒とんぼの幼虫と思われるヤゴをつかまえた。みんな、さわがにを、とてもたくさんつかまえた。青年の家に着いた。みんな、くたくたみたいだ。その日の夜、杉浦君の兄さんがねつをだした。かわいそうだなあ。ぼくは、そう思った。ねるとき、ふくちょうが「早くねないと、あした、およがさないよ」といったので、その日の夜は、ぼくは早くねた。

8月8日、朝おきて、セレモニーをやり、テレビとうに行くじゅんびをした。あんがいひくい山だった。と中、ななふし、という虫がいた。そして、ぼくはテレビとう、テレビとう、だと思いきんでいたが見て見たら、でっかいテレビアンテナだったので、ちゆくしょうめ！と思った。青年の家にかえり、水泳のしたくをした。そうぞうしかった。ぼくは、ゆでたまごをもって、かかりになった。隊長が、「荷もつを、もった人は、さきにこい」といったので、ぼくは、さきにいった。川についた。きれいなところだ。じゅんび体そうをした。みんなはいった。目をあけても、あんまりいたくない。さいごに30メートルぐらい泳げる人はおよいだ。ぼくは、2回およいだ。夜になりキャンプファイヤーをやる時間になった。うちあげ花火をやった。こだまがかえってきた。ぼくは「かつこいいなあ」と思った。ぼくたちの組のスタンプは自分では、よくできたと思った。

8月9日、ついに帰る日が来た。朝食をたべて11時まで自由時間、ぼくは、はくぶつかん等へ行った。音楽の勉強のため、がっしゅくしている人たちの音楽をきいた。ぼくたちが青年の家を出るとき事務所の人が音楽をながしてくれた。ぼたるの光だった。ぼくは、もっととまっていたいなあと思った。

帰りのいっだ線の電車の中で名古屋のスカウトの人たちにあつた。その人たちも、どこかへ行った帰りらしくザックをもっていった。ぼくは、その人たちから、めいしをもらった。とてもやさしかった。

新幹線に乗る前に隊長がアイスをみんなにくれた。とてもおいしかった。

浜松に着いた。みんなのお母さん達がたくさんきていた。浜松は、とてもなつかしかった。ぼくはリーダーとして、しっかりやったという賞をもらった。自分では、しっかりやったとは思わなかった。これからは、しっかりやると自分でも思えるようにしたいと思った。

しゃえいのはんせい

BS浜松第4団CS 松井 規行

総合センターの博物館はとてもよかった。中でも天文、化石、などもめずらしかったが鳥獣類のさんこう鳥、このはずく(ぶつぼうそう)やむささびなどがとくにこんなものがよくてんじしてあるとびっくりした。

おふろはつめたかったが、そのつぎの日はあたたかった。よるは、なかなかむれなかった。

明神山はとてもくたびれた。ちょうじょうのちかくはものすごいがけだった。とてもひやひやした。NHKテレビ塔へいく道も山だったが、明神山ほどではなかったが、NHKテレビ塔というので、てきり大きな高い浜松のNHKの塔より、ちょっとひくいぐらいと思ったが、大きなテレビアンテナのようなものだったのでびっくりした。

水泳くんれんは、とてもよかった。すずきともゆきくんが、さかなをとったのにはおどろいた。この青年の家は、山にかまれている盆地のようなところだとはくぶつかんのりったい地図を見てわかった。花火を上げるとき、音が山にこだましてきもちがわるかった。

きょうでさいごの日になった。朝食もおいしかった。かえりは、はやく浜松につかないかとおもった。

はじめてのしゃえい

BS浜松第4団CS 藤原 良和

ぼくは、これがはじめてのしゃえいなので、どんなことをやるのか少し心配でした。

1日めは、大きなことは、博物館、民俗館見物めずらしいものがいっぱいありました。とくに、三葉虫、アンモナイトのかせきを見るのは、はじめてでした。ほかにも、6本足のかえる、もぐら、まむしの子ども、むかしのいろいろなおかねなどです。それから、とうえい町はむかし、しだら海という海だということもわかりました。だから、とうえい町にはむかしの海のいきもののかせきがあるんだなと思いました。民俗館では、おもしろかったのが大うちわ、あかちゃんのすいとまきです。どれも、くふうしてあるとおもいます。

2日めは、明神山上り、明神山のふもとまでただけで、つかれてしまいまし

た。でも、少し上るときんめい水があるので、のんでからまた上りました。ぎんめい水の水は、とてもおいしかったです。ちょうじょうにつくと、昼ごはんを食べました。おいしかったです。食べおわると、大声でいろいろな歌を歌いました。ずっとここにいてみたいなと思いました。歌っているともう帰る時になったので、青年の家にかえりました。

3日めは、まちにまった水泳くんれんがありました。くんれんといっても、自由に泳げたからおもしろかったです。ぼくは、川せくんのおにいさんと遊びました。やす見君から、ビーチボールをかりて遊びました。おもしろかったです。とびこんで、ふくちょうのところまでいくのは、やりませんでした。やってみたいけど、できないからです。帰る時間がきたので帰りました。もうすこし泳いでいたいと思いました。

4日めは、家に帰ります。もう5日ぐらいいたいなと思いました。4日間の間いくくんれんになったと思います。ぼくは、まきはき賞をもらいました。これから、よい返事をしたいと思います。

舎営訓練

カブ隊浜松4団 前島秀行

8月6日は、待ちに待った舎営の日だ。7時50分、浜松南駅に集合し、8時19分みんなの見おくりとともに出発した。出発してから約2時間後、目抜き地の青年の家にとり着く。ぼくは、「ようし、だれにも負けないでがんばるぞ」と思った。

1日目の日は、博物館と民俗館を見学した。所長さんの説明がいろいろあった。民俗館では、いろいろな道具があってよくわかった。とくに、むかしの家のままだったところは、おどろいた。ねるときになると、みんなはしゃいでいて、なかなかむれなかった。次の日ぼくは、食事当番だった。また、きょうは山登りだった。食事をすませて、山登りの準備をした。緑のしげった山を登った。目的地は明神山、かなりあった。へとへとになって、ようやくついた。ほんとうに山の空気は気持ちよかった。

3日目、きょうは、ぼくがいちばんたのしみにしていた水泳の日だった。が、その前にNHKテレビ塔へ行くのだった。ぼくは「1日じゅう水泳にすればいいのに」と思った。「なんか、これも山登りみたいだなあ」とみんないっている。目的地についたと思ったら、ただアンテナがたくさんあるだけだったので、おもしろくなかった。デンマザーが「帰りには、コーラがあるよ」と言ったので、みんないそいだ。

ついに水泳だ。昼ごはんをすましてから、川へ行った。川はとてもきれいで、きもちがよかった。深い所もあって、とてもたのしかった。水泳から帰ってくる時、おとうさんと弟がきた。なにか急に明るくなったかんじだ。それは、隊長につぐハゲだからだ。

夜、キャンプファイヤーをやった。みんな覚えたスタンツをいっしょうけんめいやった。また、花火もカッコヨクやった。それで花火をやったときに、こだまがきこえてきた。ねるとき、みんなつかれたのが早くねた。

帰る日になった。みの回りのせいとんやそうじをして、帰るじゅんぴをした。12時半、青年の家を出発した。青年の家の人全員で見おくりしてくれたので、とてもうれしかった。浜松駅で、いろいろな賞を発表した。ぼくは、水泳でよく泳げたので「かっぱつ賞」をもらった。ほんとうにたのしかったしやえいです。

カブのしゃえいくんれん

浜松第4団 小野隆久

8月6日から9日まで東栄町の青年の家に舎営に行った。

新幹線で豊橋まで行って、いい田線にのりかえた。まず最初は、かく組にわかれて夜のさんぽに行った。次の朝になった。山にのぼって、テレビとうまで登った。そのときドブみぞの近くに、めずらしい虫がいた。ふく長が「この虫なんて言うの」と聞いた。ぼくが、「からだに7つのふしがあるからなふし」と言った。そうしたら「小野君よく知っているね」と言った。みんなはがんばった。だんだんしゅくしゃがみえなくなってきた。みんなが、あるいているうちに、テレビとうがちかくなってきた。テレビとうについた。みんなは、大きいテレビとうだと思ったけど小さいテレビとうだった。みんなは「なんだあ」とため息をついた。帰りには、みんなのどがかわいて死にそうだった。しゅくしゃについたらたい長がコーラをくれると言った。じゅん番にもらった。へやにかえてのんだ。くんれんしてきた後のジュースはおいしいなあと思った。

朝、おきて見るとまだみんなねていた。すごいかっこうでねていた。6時になった。おひる、博物館に行った。三よう虫のかせきやカエルの6本あしなどがいた。次に、むかしの人が使った道具や家があった。それをスケッチしたりした。博物館で2時間自由と言った。うれしかった。

次の朝、山に登りに出かけた。ぼくは、かぶれないかなあと心配した。たい長がちょう上の半分まで登ると言った。組の人、全員のおべんとうを60歩あるいたら次の人とかかわるように、しょっていった。とてもあつかった。みんなは「はあはあ」いいながら登った。とてもけわしい山でとても登りきれないと思った。やっと目的地に着いた。そこでひと休みした。おべんとうを食べたりしてかえった。おふろに入った。とてもいいゆだった。

8日の日は楽しい水泳だ。川でおよいだ。とてもつめたい水で、とてもきれいで、だれもけががなくてよかったと思う。

最後の夜キャンプファイヤーだ。まき

火をつけた。ぼくの組では、鈴木君とボクが宝の地図をやぶってしまっというようにあわせたら、たからがわかった。と言うのをげきでやった。

いよいよ帰る日だ、朝5時ごろ目がさめた。回わりを見たら、みんなすごいかっこうでねている。ひっきりかえったり、かさなったりしている。しゅくしゃでの給食のおばさんや、わからないことを教えてくれたりしたおじさんにおれいを言っ、れんめい歌を歌ってしゅくしゃを出た。とても楽しかった。おかげで、うでや足がふとくなった。

夏季舎営訓練

BS浜松第4団CS 堀内信宏

きょうは舎営で、奥三河へ行く日だ。ぼくは、家を出て車に乗っている時から、わくわくして早く行きたい気持ちだった。新幹線や飯田線へ乗ったりして、やっと奥三河の青年の家に着いた。着いてから、総合センターへ見物にいった。まず始めに所長さんのお話を聞いてから見た。いろいろな貝の化石や木の葉、魚の化石などがたくさんてん示してあったので、ぼくは、よくこんないっぱいよく見つけたなあ后感心した。ほかに鳥や石があったが、その中の石では虫めがねで見ても、豆つぶより小さいぐらいな石もあった。民俗館も行って、むかしの人々のくらす道具などもあった。その中に、仁丹と書いたかんばんのような物があったので、みんな大わらいをした。

次の日、朝早く起きて、山葉君と少ししゃべってしまった。朝食をして、明神山へ出発する時、ちょっとどういう道で、どのぐらいいかなあと想像してみた。

さあ出発だ。朝から、かんかん太陽がてっていて、体が少しだるかった。そして、えつきえつきさほそらしてない日なたの暑い所をせせを出して歩いていった。あまり暑かったので、フラフラとたおれそうになったが、ちょうど運良くトンネルがあって、その中へ入っていったらずすしくて気持ちがよくなった。トンネルの中には、セメントでかためていない岩そのものがあって、怪じゅうのように見えた。がたごと道をてくてく歩いて行くと、本ばんの険しい山道になってきた。日かげもあり川がすんできれいだだったが、急な坂道で、石ころがいっぱいあったので歩きにくかった。松井副長が「がんばれ、がんばれ」と応援してくれたが、なかなか力が入らず、もうたおれそうになった。だんだん上がって行くにつれて、急な坂がもっと急になってきた。だんだん息苦しくなってきた。足がだるい。しかし、ぼくはここまで来たんだから、がんばらなくちゃと心に決めつけて登っていった。もっと登っていったら、副長が「銀明水よ」と教えてくれた。最初、言葉の意味がわからなかったが、きれいな飲み水のことだった。銀明水の所に着いたら、隊長が「ちょう上へ行くとき水がーてきもないからここで水を入れて、満夕

次頁へ

ンにしておけ」と言ったので、一せいに水を取りに行った。ぼくも、急いで水を取ってから、そこらを見たら、へんなでっかい石がいっぱいあった。又、歩き始めた。山はだんだんと険しくなってきた。道巾がせまくなっていく。どんどん登って登って、草をかきわけ、かきわけてやっと着いた。ちょうど上までは、子どもではいけない所だったので、そこでストップして、すぐ昼食にした。あたりを見回すと、昼食をする広さがせまくてその上すぐでっかい太った石があったので、よけいにせまくなった。下を見ると、森林ばかりで見るとおちそうになった。ぼくは、銀明水を飲みすぎたのか、あまり食べれなくて、たまごを一つ残してしまった。それから少したって、みんなで歌をうたったりしてから、山を下り始めた。急な坂なので、歩きにくかった。だんだん下っていき、小さい川に来て隊長が「ここで遊んでもよい」といったので、まんま喜んで川の中へ入っていった。ぼくもうれしくなって川の中へすぐさま入った。川の水は冷たく気持ちよかった。いろいろやって川から出て、だんだん歩いていき、やっと宿舎へ着いた。ぼくは、つかれてつかれて足がちんぎれそうだった。その日の夜ぼくは、水を飲みすぎたので、はらをこわしてしまっていたが、一晩ねたらずぐ直ったので安心した。朝食してから、NHKのテレビとうの見物をして、お昼に水泳を2時間ぐらい深い所へ行ったり浅い所に行ったりした。

夜になって、星がいっぱい出ている時に、キャンプファイヤーをやった。ぼくは、4組のスタンツがうまくいくかなあと心配した。2組からだんだんやっていた。2組のは、なんかせん伝みたいのが入っていて、なかなかおもしろかった。やがて4組の番だ。と中までやると、声も小さくなってきて、みんな聞いていないように思えた。スタンツが全部終わって、少し花火をやった。パンパン飛んできれいだったし、こだまも ってきたので、楽しかった。それから宿舎へ返って、ぐっすりねた。

4日目、きょうは帰る日だ。昼食をして、帰るしたくをした。ついに帰るときだ。出発しようとしたら、青年の家の人たちが手をふっていた。ぼくたちも思いっきり手をふった。

今度はもっとかっぱつに行動し、おなかもこわさない舎営にしたいと思う。

舎 営

BS第19回 中村拓雄

8月の5日、6日は相良へ舎営に行った。海へ行ったら人がおおぜいいて、ありの大群のようだった。知らない人たちが沖の方で泳いでいたので、あぶないと思った。ぼくたちは、おとうさんがたがついていてくれたので安心して水あそびができた。高波がくると、みんなふきとばされたようなかっこうになって、おも

しろかった。

夕ごはんは、おかあさんがたがしてくれた。大きなおかまで、カレーをにっていた。去年、山の方へ舎営に行った時は、かまどをたくさん作ってカレーをにた。ぼくは、山の方へ舎営に行った方がよかった。川でさわがてや川はぜをとって、かまどに入れてやいて食べたからだ。それに自分たちで、まきをくべたりしたからだ。山へ行った時のキャンプファイヤーは、ぼくたちの集った時には、もう火がついていたが、今度の時は、みんなが集まって来てから火をつけたから今度の時の方がいいなと思った。よく日、朝ごはんはとてもおいしかった。

海へ行ったら昨日よりも波が高かったのに日曜のせいにか人がたくさんいた。帰って来たら「きがえてしまった人からアイスクリーム1個」と言ったので早いものがちだなと思った。昼ごはんは、シチューだった。大好きだからたくさん食べた。昼ねをした時、ぼくは、なかなかむねなかつたかと思っていたのに「拓雄なんか一番初めぐらいにねたわよ」と言われたので、びっくりした。

舎 営

BS第19回 吉川悦次

舎営で楽しかったことは、キャンプファイヤー。でも、この前の舎営の方がなんとなく楽しかったような感じがする。ぼくたちで、ごはんをたいりしたからだ。しかし、こんどの舎営は、おかあさんがたが、ごはんをたいりしたから。でも今度の舎営の方がよかったなと思ったところもある。それは、帰りに相良1回の人とゲームをしたからだ。ぼくは、くつのゲームの時、5番にはいったし、ねことねずみのときもつかまらなかった。おにごっこするときもつかまらなかったから。

夜ねるときは、すぐねむれたがゴキブリが、顔ののりたりゲンゴロウが目の回りを回ったりしたのですぐ目をさましてしまったので、はらがたつてきた。目をさましたのが5時15分。

海水浴は、はじめは海水浴をやったが2度目は、目が赤かったので、海水浴をやめたので残念でたまらなかった。

少しつかれたけど、もう一度行ってみたいと思う。

舎 営

BS第19回 野中 智

ぼくたちは、8月の5日、6日ときがらへキャンプに行った。いちばん楽しかったのは海水浴だった。海は白い波が高く「こんなところで泳げるのかナ」と思った。はじめはちょっとこわかったが、なれてきたらナミののって少し泳ぐことができた。

2日目の時は、ひきしおだったので赤

ハタのスグそばまでいけた。だから、ときどきとびあがっても顔までかかる大波がきた。その時、足の下の砂をみんな波がもってってしまうので力いっぱいふんばっていても、ひっくりかえりそうになってしまった。でも、いっしょに行ってくれたおとうさんがたが、ゆうどうしながらみはりをしてくれたので、ぼくたちは、あんしんして泳いだり遊んだりすることができてほんとうにたのしかった。キャンプファイヤーもまたたのしかった。

はじめてのしゃえい

BS浜松7回 倉田千吉

ぼくは、しゃえいの前の日にうきうきして用意をしました。次の日の朝、雨がぼつぼつとふってきたのでぼくは、きつどめだと思いました。その日の登校日ですむと晴れてきたので少しうれしくてうきうきしました。それから時間になると駅へ行って電車に乗りました。人が多ぜいでなかなかいすにすわれませんでした。そして、やっとすわれたと思ったら、もうおりののであきらめました。そうして駅から出ると、ならんでとほをしました。隊長さんは、もう1キロメートルと言うのに、またもう1キロメートルと言うのですごくつかれました。それからやっつくと、すいとうの水をがぶがぶのみました。そうして、こつきを上げてけいれいをしました。それがすむと、とまる家に入って荷物をおきました。そうして外で、はしとスプーンを作りました。はしは、おじさんに切ってもらったのを少しけずるだけだったけど、スプーンは自分で作ったのでむずかしかったです。そうして、やっどできると隊長さんが「おかあさんの作ってあげなさい」と言ったので、おじさんにかたを作ってもらって、それからあとを自分でしました。だから少しかんたんだったです。それからよるになると夕ごはんを食べて、ちかいの式をしました。そうして花火を見に行きました。何色も出てとてもきれいでした。帰るとねました。キャンプは始めてなので、なかなかむねませんでした。

次の日ハイキングに行きました。さかを登るのでつかれました。帰ると水泳会をしました。もうすこしうまくなるといいなと思いました。午後水泳大会をしました。水がつめたかったです。夜には七夕まつりをしました。たきの所へ行く時少しこわかったです。それがすむとねました。

次の日、弓を作りました。それができると弓大会をしました。ぼくの弓で、ふうせんを一つもわることができませんでした。そしてまた水泳をしました。水がすごくつめたいので、上ってばかりいきました。ひるになると、たきの所でおにぎりを食べました。たまごも食べました。そして自由時間の時に水泳をしました。平泳ぎが少しできるようになりました。そうして荷物をかたづけ、まきの君の家の自動車に帰りまきました。

楽しいしゃえい

BS第7団カブ隊 太田 策 教

8月12日の午後からしゃえいに行きました。バスで浜松駅まで行って浜松駅から電車で西かじまで行きました。それから3キロメートルぐらい歩きました。パンガローンについては、さっそく、おはしとかスプーンを作りました。おはしはかんたんだったけど、スプーンはむずかしかったです。それがおわると、たきのところで水あそびをしました。川の水は、とてもつめたいので、そうながくははいっていませんでした。夜になって入たい式をやってから花火を見に行きました。自動車で行った組もありましたがぼくらは歩いて行きました。とちゅうまで行って、とめてあるトラックの上に乗らせてもらって見て行きました。とてもきれいな花火でした。ものすごい大きい花火もありました。トラックのもちぬしがきて帰ると言ったので、おなじ方向に行くので乗せて行ってもらいました。来るときよほど歩いたので、とてもたすかりました。とてもたのしかったです。

2日目は朝からてんぼう台へ行きました。とてもたくさん歩きました。上り坂ばかりなので、とてもくたびれました。朝、雨がふったので山道などはよくすべりました。てんぼう台につくと暑くてけしきどころではありませんでした。それなのですぐひきかえしました。帰りにしようにゅうどうへ行きました。まっくらなのでロープをみんなもって行きました。出口に出たらまたもどるといったので、がっくりしました。またもどって帰りました。帰ったら、まだおひるまでに時間があつたので川に泳ぎに行きました。とてもきもちよかったです。午後は、水泳大会です。とても流れがあつて流れにさからおうとするとながされてしまいます。水泳大会は、ぼくたちはゆう勝できませんでした。1回戦日からまけました。夜は、きもだめしをやりました。たきまで1人で行って、ふくたいちょうさんにアメをもらって帰って来るのです。山おくえ行くのでとてもこわかったです。

朝からゆみやを作りました。竹がうまくまがらないので、いろいろくふうしてまんなかをすこしほそくしました。作ったら、ふう船のわりっこをしました。あたるけどなかなかかわれません。それなので先をもつごとくがらしてやりました。ふうせんが風にゆれてうまくあたりませんでした。それから川に泳ぎに行きました。速い方まで、ふくたいちょうさんと泳いで行きました。行くときは流れにさからって行きました。それなので、なかなかすすみませんでした。帰りに、ういてるだけでもいってしまうぐらいです。おひるをたべにひとまずもどってまた行きました。さいごなので、おもいきりおよぎました。とてもたのしいしゃえいでした。



合同野営に参加して

浜松第10団少年隊 河合 裕 明

8月10日、篠原小学校前に7時30分までに集合ということになっていた。天候は、はっきりしなかった。どもバスは天候にかまわず渋川に向けて出発した。

僕達、浜松10団は南部ブロックで隊長に聞いたところ、そこはまだ未開拓で自分達で開拓すると隊長から聞いていたので、なんだか行く気にもならなかった。だんだん皆と話したり歌ったりしているうちに自分の時計で10時25分渋川に到着した。その時は、すこし雨がばらついてた。また班長訓練野営のときといっしょの天候になってきたと自分自身でつぶやいていた。バスから降りてから、班ごとにならんでから現地までの道のりを歩いてようよう南部ブロックに着いた。それからすぐ開所式にうつって、20分間ぐらい注意とあいさつをした。そのうちに大雨が降ってきたので合同野営はなかば放棄したくなった。その後、ブロックに帰って土地をわけて土地がせまいので、隊でフライ1つと立ち釜を1つ作ってから班の住居、すなわちテントを立ててから弁当にした。それ

それから雨は2日間連続して降っていた。その中で僕達「馬班」皆の協力のもとで「ガンバリ」続けた。火がなかなかつかず、くふうしてやった。でも火がなかなかつかずだったので、隊長にやり方を聞いて隊長の言ったようにやったら火がついてきた。

33日目はハイキングになっていた。朝からおむすびを作って9時30分ごろ南部ブロックを出発した。出発してからすぐに大雨にあつて、行く気にもならなかった。でも、1つ山2つ山をこえていくにしたがつて、山の中にはいつてしまつてへんなどころへはいつて、まよいこんでしまつたけれど2時間ぐらい歩いているうちに道に出たので、そこから熊までいくまでに天候も変わり晴天にめぐまれて心もたからかになった。でも30キロちかく歩いたので足がぼろろになってしまつた。でも南部ブロックに到着すると皆が拍手でむかえてくれた。現地についたら、ち

ょうど心も気軽になった。

最終日は、サイドをつぶしてから、閉所式にうつってその後すぐサイドにもどり、サイドを見回してからバスまで歩いていった。渋川をたつたのが3時30分ごろだった。篠原小学校前に5時ごろ到着した。それから隊長の注意をうけてから解散した。

合同野営に行つて

浜松第16団少年隊 柴田 雅 之

今度の野営は、初日から雨がふりたいへんだつた。その雨でくつがぐちゃぐちゃになつても、ほしておけないのがこまつた。キャンプ場には、ハチがいて初日に2度もきされてしまつた。そして初日、ごはんをたくときにポーシをうちわがわりに使われたのがこまつた。しかしこれからは、うちわをもつていけばよいということに気づいた。ねる時メガネ入れをわすれてこまつたが考えたすえ、テントのひもにしばりつけておくことにした。

次の朝も雨がふつてた。雨がふつていと、ごはんをたくのに手間がかつた。はじめの火がつかないからだ。しかし、そのようにくろうして作つたごはんはおいしかった。水浴の時は、からだを流してきれいにしたり、下着などのきもののかえちをもつていつて「かえたりした。きるものの、もたせ方としては、はじめにさぎょうの時きたない物を着て、ねる時は、きれいなものを着てる時は気持ちが悪い思いをしないように考えた。

ハイキングの時は、すごい大つぶの雨がすごいいきおいでふつていたので中止かと思つた。そしてみんな心配したが、やがて雨がやんだ。長い間あるいたが、かわつた道もあるいておもしろかつた。そして実さいのコース外の道を通り、はやくついたが、その近道には草がぼうぼうにあつたので、それをのけて歩いた。しかし、そのおかげでネッカーリングをおとしてしまつた。でも心配されたハイキング中の天気も後半で晴れ間ができてたすかつた。

よくねないといつかれるので早くねた。しかし、さいごの日はあつてねむれずこまつた。山から見た星はきれいだった。家からでは見えない暗い星もよく見えていた。

さいごの日になるとよく晴れてた。そのせいかハチがふえだした。初日ハチにさかされているので、くるとにげたりしていた。このキャンプでは、雨がふつて行動がにぶり計画もくつた所があつたが、ぶじしゅうりょうした。

一番こまつたのは、3泊4日という長い間、下ぎるのかえる時と、くつなのはき方などだった。でもそれはうまくできたので楽しくできた。

このキャンプで下ぎのかえ方、今度やるときのひつようなもの、やらなければならぬことがわかつた。

あしたは舎営

浜松10団カブ隊 山田昭浩

あしたは舎営だ。目てき地は住吉の青少年の家だ。1ばく2日の予定だ。

8月に予定されていた舎営が、悪天候のため中止になって、がっかりしていたときなので、楽しみが2倍になった。

パンフレットにあわせてあしたのじゅんぴをする。チリ紙・雨具・ロープ・カブブック・筆記用具・ノート・クレヨン・ユニフォーム・運動ぐつ・カブ帽子・弁当など、そろえておかなければならない。ぼくは4組の組長だ、どれをひとつずつわすれてはならない。なんどもパンフレットにあわせて用具をととのえた。それがおわるとユニフォームのてんけんだ。「スマートネス」をモットーとするカブスカウトだ。ユニフォームにブラシをかけよごれをおとし、ネッカチーフのしわをのばし、手足のつめも切った。

これでよし、あすのきたいにむねがふくらむ。どんなプログラムがぼくたちをまっているだろうか。

がんばらなくちゃ4組のめいよにかけても。その夜はなかなかねむれなかった。

営火

浜松10団カブ隊 那須田浩司

開会式やいろいろなぎょうじをおえ、いよいよ営火がはじまる。まっくらにせずまにかえったへや、しーんとしたの音ひとつない。「コッコッ」とつえの音がきこえ、ろうそくの光とともに、ふくだんいいんちょうが、白いぬいで身をつつみはいてこられた。そのすがたを見て、せん人か神様のように見えた。副長のおねいさんたちによって営火がともされ、たい長のリードでハミングがはじまった。「どおき山に日はおちて」家で歌ってるのとはちがって、なんとなくおごそかにじーんとくる。そして、ふくだんいいんちょうは、おごそかにおっしゃった。「カブスカウトのせいしんをつらぬき、りっぱな青年になるように」とおっしゃられた。

ぼくは、あのときのお話に強くかんだうし、ぼくが大きくなってこの営火のともしびとともに、あの話をわすれることはないだろう。ぼくは、ふかくかんがえた。だれにもはじることのない強く正しいりっぱな青年になろうと。 終り

ざんねんだったこと

浜松10団カブ隊 相曾貴夫

ぼくは、しゃえいに行くのをとてまたのしみにしていたのに、22日になって頭がすこしいたので、ねつをはかったら38ど5ぶありました。ぼくは、がっかりした。かめたにせんせいのところへ行って、おくすりをもらい6時間おきにのみました。

つぎの日も一日中うちのなかについて、しずかにねていました。もしかしたら24日には、いけるかもしれないとおもいましたが、24日のあさおきてみたらきもちがよいので、おかささんに「ゆこうよ」といったら「きょうはつごうがわるくていけないね」といいました。ほんとうにざんねんで、ざんねんでしかたがありませんでした。

野営に参加して

鈴木 毅

9月の23、24日の休日をつかって野営をかねたハゼつり大会に参加しました。ぼくは野営に参加したのは2どめです。いままで多くの野営がありましたが、いろいろと用事があったため参加できませんでした。

23日の土曜日、この日は朝からよく暗れていました。でも台風がちかづいているのでちょっと心配でした。ぼくたちは、午前8時までに山内店の横に集合し、荷物をトラックにのせ、ぼくたちは歩いて名店ビル前にあるバス停からキャンプ地へいきました。

そこは海辺から北にはいると、すぐ山の中にはいってしまいそうでした。ぼくたちは海辺から北へ3分ほどはいったところがありました。ぼくたちはテントと食堂をはる場所をきめました。その場所をきめると開所式をおこないました。武が終るとテントをはりました。他の班と競争をしてつくりました。でも、ぼくたちの班が一番早くつくれませんでした。一番高く大きくはれたようでした。つぎは食堂です、ロープや自然の木などをつかってつくりました。そうして約2時間から3時間ほどでおわりました。

つぎは海へハゼつりへいきました。きたときの道を歩いていきました。でも、ぼくたちが早くはまべにきすぎたので、なかなかえさがきません。もうえさなしで、つっている人もいました。しばらくしてえさがきました、まるでみんなが魚になったようにえさをとりあいました。ぼくは前から友だちだった夏目君といつものまにか競争をしていました。きっかけはわかりませんが、とにかく競争をしていました。はじめのうちは8対4と負けていましたが、ここから10びきまでがあくせんこうでした。「何びきつれた?」「ちっともつれないぞ」などと夏目くんと話しながらつりました。でも、しだいにぼくがちょうしをあげ、いつものかんがもどってききました。ぼくは、そのときえさがなくなっているのにきがつきました。でもぼくは逆転、逆転のすえ15対15の引き分けでつりました。

キャンプ地へもどるとすぐに夜食の準備です。ぼくは近くのまき木をひろいました。約30分内、米などをたいたりして食事ができました。みんなつかれきってしまっていて食よくありませんでした。

夜は魚とりです。ぼくは、あみをもつていきました。でも、なかなかとれず班

をあわせて5ひきほどでした。キャンプ地にもどると1日のつかれがでているので、すぐにねむれそうでしたが、なかなかねむれませんでした。

朝6時起きしよう。すぐに朝食のじゅんぴ、7時半ごろできあがりしました。しばらくしてテントなどをとりこわす作業にはいりました。2時間もかかってつくったテントも1時間内ですべてこわしてしまいました。

航空自衛隊一日入隊

浜北3団カブ隊 中野岳志

たくじ君の家の車にのって、連らく所へ行行った。来ている人が少ないので「ないのかな」と思って心配だった。時間がたつにつれて人が多くなってきたのでほっとした。みんな、はい品をもってきた。ぼくは「しまった、わすれた」と言った。

ただかつくんの家のバスで出発した。むねがわくわくしてきた。始めは救難隊へ行行った。ヘリコプター、ていきつきなどがあつた。資料館へ行行った。プロペラ、エンジン、服、大ほうの玉などがあつた。昼食を食べた。うなぎどんぶりだ。ごご、ゼロセンを見た。グアム島でこわれた中で一ばんいいものをとってきたと説めいしてくれた。かっこよかった。バスにのってナイキを見にいって。2つにわかれると、えいがで見た。アポロロケットみたいだ。そして帰った。とてもよい勉強になった。

自衛隊一日にゆうたい

浜北3団 米山 隆

ぼくは、南きちに来たのは3どめだ。はじめの時はおまつりでいった。2どめは父といった。時間は、はじめ8時半だと思つたけれど8時と書いてあつたのでいそいでれんらく所へ行行った。行く車は浜松ごうはんのバスにのっていった。

じえいたいについて、えいがをみた。はじめは、き地の中その次マンガのよえなえいがを見た。とてもおもしろかった。それで、きゅうじよたいを見にいって、ふくそうは人によってちがつた。たいちようが、きゅうじよたいのもちものをしよったりした。それからパラシュートをだしてみせてくれた。それからお昼だ。うなぎどんぶりだ。自分できゅうじ、おゆをくんだりごはんをもちにいったりたいへんだ。たべたら、自どうはんばいきのお金をいれるように、おきら、お茶わんと、しゅるいべつにわけている。

午後は、ぜろせんを見た。じえいたいのおじさんが、ぜろせんのことをはなしてくれた。つぎに、ばん国はくらん会にかざられてあつたひこうきをみた。その次は東京から大きかまで10分8秒だけでいけるひこうきの中をみた。それは1人乗りだ。そのひこうきは、テスト用のひこうきだ。それからヘリコプターのそうじゅうせき、ひこうきのそうじゅうせきにすわつた。さいごにナイキをみた。ものすごくかっこよかった。



自衛隊20周年記念に参加して

浜北3隊カプ隊 兼古真司

11月5日ぼくたち浜北第3回カプ隊は、自衛隊20周年記念祭に参加しました。自衛隊はぼくたち2回目です。バスの中では、みんなで窓から見える車のナンバー当てなどを行っているうちに、すぐついでに、自衛隊南基地でおりました。ぼくたちは、広いしばふのあるところで並び、入場行進をするので「頭右」の合図をおそわり、ぼくはだんだんきんちようしてきた。みんなで荷物をかためて、すぐにも行進できるようにしていた。でも長い時間待ったような気がした。

自衛隊のこてきの音がひびきわたってきた。いよいよ始まるんだと思った。ぼくたちは足ぶみをして行進を始めた。大ぜいの人たちが見ている中でやった。ぼくはいちばんすみなので、なんとなくうれしかった。ならったばかりの「頭右」をやった。うまくできた気がした。いっしょうけんめいやって、やり終った時はほっとした。

その後は自衛隊の人たちによる救出くんれん、ヘリコプターからなわばしごがおりて人が地上からはしごを登りヘリコプターに乗る。ぼくは、はらはらして見ている並んだ時のせいや、足などがとてもきれいにそろっていた。ぼくは感心した。自衛隊の人たちの日ごろのきびしいくんれんがあったから、できたのだなと思った。ぼくには、なにもかもが印象に残った。

自衛隊20周年記念に参加して

浜北3回カプ隊 村松浩友

ぼく達カプスカウト浜北3回は、ボーイ・ガールスカウトとつしよに自衛隊20周年記念祭に参加しました。

到着して少し休んでから、自衛隊員の前をこてき隊を先頭に、海洋少年団、団旗、ガール、カプ、ボーイの順で行進をしました。行進をしていく途申えらい人の前で隊長が「頭右」と言ったので、ぼくたちは手を真上にあげて通りました。ぼくは、かたくなって少しあがやりました。でもとてもいい気分でした。

それから救助くんれんや射ぎきくんれんを見てからバスの中で、おべんとう食べました。食べている時にラジコン飛行機をやっていたので、それを見ながら食べました。

みんなが集合してから帰りました。とても楽しい1日だった。

海外派遣団員募集要項の抜すい（日連要項）

県連より下記5件の海外派遣の計画が示されたので要項を抜すいしましたので各団で参加希望のあるものについては事務長まで連絡願います。

- ①第1回日米友愛ジャンボレット
 - 会期 昭和48年3月30日～4月2日
 - 会場 沖縄県石川市石川ビーチ
 - 参加人員の制限 アメリカ側 400名 各県連側 300名 沖縄県側 500名※いずれも先着申込順にメ切られる。
 - 参加費 1,200円
 - メ切 48年2月28日(木)迄に予約金1,200円を添え沖縄県連事務局へ申込みをする。
- ②第8回アメリカ・ジャンボリー(名称)
 - 期日 昭和48年7月28日～8月27日
 - 場所 アメリカ合衆国(西部)アイダホ州アラガット州立公、ワシントン州との州境(東部)ペンシルヴァニア州モレーヌ州立公園●派遣人員 100名
 - 参加費 35万円(航空運賃、滞在費、

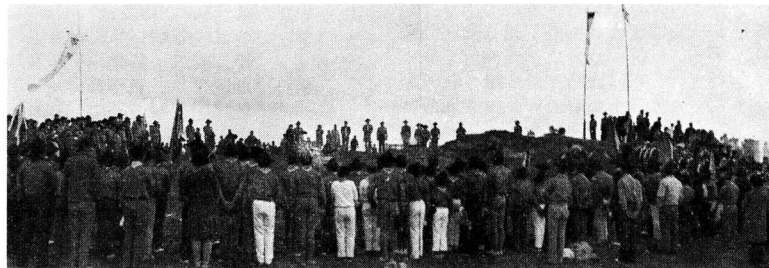
小遣い等を含む)●申込メ切 日連へ必要書類を添え48年3月31日まで。

- ③第5回フィリピン・ジャンボリー
 - 期日 昭和48年12月25日～49年1月8日(14日間)●場所 フィリピン、ラグーナ、マッキリン・パーク●派遣人員 スカウト・指導者 500名●参加費 13万円(航空運賃、滞在費、小遣)●申込メ切 日連へ48年6月30日必要書類と共に
- ④第4回国際芸術週間派遣団員募集
 - 期日 48年7月20日～8月19日(30日間)●場所 イギリス、ロンドン、ギルウエルパーク●派遣人員 10名●参加費 40万円●申込メ切 日連へ必要書類と共に48年3月31日までに提出。
- ⑤スウェーデン・ナショナルキャンプ(名称)
 - 期日 昭和48年7月20日～8月19日(30日間)●場所 スウェーデン、フデイクスヴアル郊外●派遣人員 10名●参加費 40万円●申込メ切 日連へ必要書類を添え48年3月31日まで。

謹 賀 新 年

<p>日本ボーイスカウト</p> <h3>浜松第16団</h3> <p>育成会長 市川重雄 団委員長 新谷豊</p>	<h3>浜松第7団</h3> <p>団委員長 大橋俊蔵 団委員一同</p>
<p>賀 正</p> <h3>浜北第四団</h3> <p>育成会長 高倉要 団委員長 星野長次 副 〃 坂尾正義 副 〃 梅林朝雄 〃 気賀元彦 事務長 高柳春男 会 計 小畑治美</p>	<p>弥栄「スカウト浜松50号」</p> <h3>浜松第15団</h3> <p>育成会長 林良太郎 BS第1隊長 名倉惣一郎 団委員長 山中将司 BS第2 〃 市川隆 副 〃 袴田栄治 S S 隊長 原口芳彦 〃 〃 川瀬愛次郎 R S 〃 平野武 CS隊長 山下虎男</p>
<p>賀 正</p> <h3>浜松第20団</h3> <p>団委員長 地区野営行事委員長 竹村徳一</p>	<p>賀 正</p> <h3>浜松第21団</h3> <p>BS隊 CS隊</p> <p>CS隊発隊に際しては多大のお世話になり御礼申し上げます</p>

昭和48年遥拝式



うごき

- 8月4日 細江1団に地区大会打合せ
細江町商工会 外山、柴田
- 8日 浜松ロータリークラブ13万円
贈呈式 浜信本店 地区委員
長、後藤、渡辺
- 11日 米国派遣員帰国 8名無事帰
国
- 10~13日 合同野営(520名参加) 3泊
4日 渋川川宇連
5野営区組織
- 14日 矢田県連理事長死亡
- 16日 矢田県連理事長密葬 沼津
自宅
- 17日 米国派遣団反省会 法林寺
- 19~20日 浜松市パイ大奉仕 市青少年
の家 三輪悦、外山、他
- 21日 地区委員会 法林寺 合同野
営反省会兼ねる
- 22~24日 S S 洋上訓練 佐鳴湖畔 25
名参加
- 24日 矢田県連理事長告別式 沼津
第4小学校 体育館(代表三
輪)
- 26日 看護学院キャンプ打合指導
医師会館(三輪、後藤他)
- 9月2日 地区コミ会議 静岡県民会館
スカウト像建立50周年史ほか
- 4日 地区内コミ会議 法林寺 地
区大会、団委員講習会ほか
- 7日 カブ講習会用スライド勉強会
法林寺
- 9日 看護学院生徒キャンプ指導
芝形(野外活動センター) L
12名奉仕
- 10日 市パイ大奉仕 市青少年の家
歌ゲーム、外山、三輪、内田
嘉
- 15日 地区大会会場下見及渋川野営
場整理 細江公園一帯
- 16~17日 事務長会議 県民会館(牧
野)団委員講習会 奥山方向
寺及び荘青年研修センター
26名参加
- 19日 米国派遣浜松班集会 法林寺
ヒルモント行動記録打合
- 〃 地区大会式典部会 法林寺
地区大会式典部検討
- 22日 野営行事委員会 法林寺 G
S 舎地区大会打合
- 25日 地区リーダー研修会 法林寺
地区大会他米国派遣員スライ
ド上映
- 29日 地区内名誉会議 内田時世宅
表彰関係(地区委員長コミ事
務長)
- 〃 CSリーダー打合せ会 法林
寺 地区大会CS出しものにつ
いて
- 10月1日 地区大会々場下見 細江公園
一帯 BSコース検討下見
- 〃 CS研修所々員会議 駿河銀
行日出島寮 WB第5期所員
会議(宮沢、柴田、三輪)
- 4日 地区シニアリーダー会 市川
重雄事務所 移動野営につ
いて
- 5日 地区内コミ関係者会議 法林
寺

- 7~10日 高台リーダー会 地区大会打
合せ WBカブコース 市青
少年の家 宮沢、柴田、三輪
他奉仕
- 11日 野営行事委員会 法林寺 地
区大会細部打合
- 14日 地区コミ、事務長会議 県民
会館 除幕式等
- 〃 地区委員会 法林寺 地区大
会の件ほか
- 15日 緑化図面記念植樹祭 船越公
園 佐鳴湖公園 11B 18B
19C B 20C B 可美1 B
1 B 6 B 14B 15C B
21B 合計300
- 16日 地区大会準備会(BS関係)
法林寺 BS関係コース打合
- 21日 S S 移動野営 細江町(細江
中学) 野営行事委員、コミ
関係隊長、28名奉仕
- 〃 地区大会準備 長楽寺
- 22日 地区大会式典のみ 気賀小学
校
- 30日 自衛隊20周年記念行事打合
自衛隊(南基地)渡辺、井ノ
口
- 〃 地区内コミ会議 千鳥
- 11月3日 スカウト像除幕式 静岡城内
小学校
- 4日 地区コミ会議 県民会館 三
輪
- 5日 自衛隊20周年記念パレード—
450余名参加
- 9日 21団CS説明会 妙恩寺 内
田、三輪、柴田
- 12日 1団運動会 県居小学校
- 13日 BS講習西部関係打合 法林
寺 掛川地区以西
- 15日 地区内コミ関係者会議 法林
寺
- 17日 合同野営地区大会反省会 楠
会館
- 19日 カブラリー(磐田地区)見学
見付つつじ公園 内田、三輪
牧野、柴田
- 20日 講習会本部員打合 法林寺
- 21日 中央部会リーダー会 いざか
や食堂
- 22日 指導者養成委員会 法林寺
- 23日 地区シニア集会 青少年の家
- 24日 BS講習会本部員打合 法林
寺
- 26日 地区リーダー研修会 市内
史跡めぐり 26名参加
- 27日 地区シニアリーダー会 市川
重雄事務所
- 〃 カブリーダー会 法林寺
- 28日 野営行事委員会 法林寺
- 30日 BS160期講習会準備 市青
少年の家
- 12月1日 BS160期講習会 市青少年
の家 三輪、外山、宮沢、牧
野、柴田、名倉、平野奉仕
- ~3日 地区コミ、事務長会議 静岡
魚磯 三輪、外山、牧野、柴
田、渡辺、平野
- 9日 秋葉神宮大祭 秋葉神宮
- 16日 21団カブ隊審査 妙恩寺
- 17日 第3回オーストラリアシニア
大会派遣出発 4団野島 12
団竹田 18団赤堀

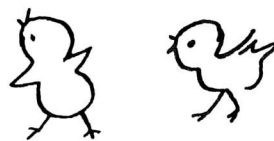
- 20日 地区名誉会議 地区委員長宅
三輪他
- 23日 地区忘年会 法林寺
- 24日 地区シニアパーティー 健保
会館

浜松第21団に カブ隊発隊

昭和48年1月7日(月)生憎の雨であ
ったが、天竜川町の妙恩寺の本堂に於て
厳肅のうちに式は進められ新しいカブス
カウト30余名が誕生した。

来賓には県連井野理事を始め、地区役
員、リーダー、友隊スカウト多数が列席
し、12団カブ隊鼓隊の演奏が花を添えた。
引続き浜松21団発団1周年記念式も行わ
れた。

益々発展拡大される21団に心から弥栄
を送る。



あ と が き

〇50号を記念して、あれもこれもと思っ
てはみたが、結局は変り映えない内
容になってしまって恐縮。

〇例年ならば地区大会の記事で華をそえ
るところであるが、昨年は雨のため特
記すべきこともなし。思えば県大会の
雨による流会と云い珍しく大会が恵ま
れなかった年。

〇カブ隊諸君からの投稿多く、財布とに
らみつつ頭痛鉢巻の編集とは新年早々
頭の痛い話。

〇50号までのあゆみをたどって改めて改め
て感無量、その号だけをみれば大した
ことはないと思うが、ちりもつもれば
のたとえの通り又、歴史の積み重ねと
共にその重みと意義を感じる。スカウ
トの歴史と共につづけよ「スカウト浜
松 T・S生

発行所 第50号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和48年1月25日発行